

336
19

法學士 木村增太郎講述

刑法總論大意

全

京都 帝國法政學會出版

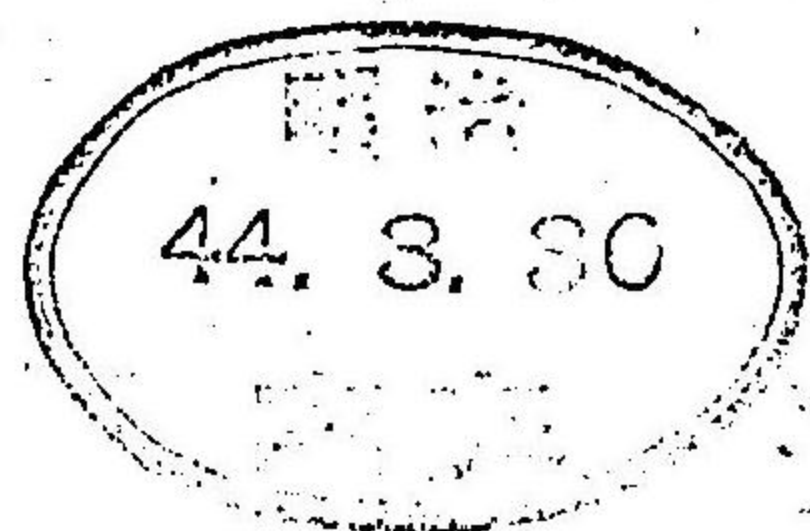
336-19

法學士 木村增太郎講述



刑法
天法大意

全



京都

帝國法政學會出版

自序

苟くも現時の著述家が自己の新著の社會より好評を博せんと欲するには、先づ其卷頭に於て自ら其價値を説述するの自負心ある可き筈のものならん、然れども余は未だ自ら斯くまでの自負心と満足とを以て自己の著述を公にし得たること非ず、況んや本書述ふる所の刑法の如き余にこりては聊か門外漢たるの憾あるのみならず、聞くか如くんは本施行法は明治初年以來四十年間に渉る諸法令に何等の動搖を與ふるなくして、新刑法を運轉するの妙作用を有するものなりと謂ふに於てたや、唯余は曩に新刑法講義を公にするの暴舉を敢てしたるの責任上、法政學會主幹の請を否むに由なく其運用法を茲に講述したるのみ、若し夫れ不完全なりとの誹りの如きは乞ふ甘んして之を受けん、假令九牛の一毛たりとも斯學攻

究上に益する所あらは余の望足る矣焉んぞ其餘を庶幾せん
や昔者馬骨を五百金に購ふて千里の馬を得べしと説ける者
あり、本書にして若し他の良著述をして千里の馬たらしむる
の魁たるを得ば、假令近き將來に於て本書が馬骨として埋没
さるゝに至るも余に於て復た何をか憾まん一言巻首に叙す
ぎ云爾

洛東神樂岡の寓居に於て

著者識

明治四十三年三月

刑法施行法大意目次

緒言

- 第一節 用語例……………五
- 第二節 新舊法ノ刑ノ對照比較ニ關スル規定……………八
- 第三節 刑法施行前ニ犯シタル罪ト刑法施行後ニ犯シタル罪トノ競合ニ關スル規定……………二九
- 第四節 舊法ノ刑ト刑法ノ規定トノ調和ニ關スル規定……………四一
- 第五節 刑ヲ定メタル他ノ法律ノ處置ニ關スル規定……………五五
- 第六節 刑法條以外他ノ法令ノ人ノ資格其他ノ事項ニ關スル規定ト刑法トノ調和ニ關スル規定……………七三
- 第七節 刑事訴訟法ノ改正ニ關スル規定……………八七

第八節 刑ノ執行猶豫ニ關スル規定……………一〇八

第九節 賠償處分ニ關スル規定……………一一七

第十節 訴訟費用ニ關スル規定……………一二〇

刑法施行法大意目次(畢)

刑法施行法大意

法學士 木村增太郎講述

緒言

刑法施行法ハ刑法ノ適用ヲ圓滑ナラシムル爲メ之ニ必要ナル各種ノ事項ヲ網羅シテ規定スルヲ目的トスル所ノ經過法ナリ、經過法ノ目的ハ新舊二法ノ間ニ介在シテ二者ノ齟齬衝突ヲ調和シ以テ舊法ヨリ新法ニ遷移スルニ付キ支障ヲ感セサラシムルニ在リトス、蓋シ刑法施行ト同時ニ舊刑法ハ廢止セララル、ヲ以テ新舊二者間何等ノ關係ナキカ如シト雖モ舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者刑法施行前其ノ執行ヲ終ラサルトキハ刑法施行後ニ於テモ之ヲ執行セサル可カラス、且又舊刑法ノ罪ヲ犯シタル者刑法施行前未タ確定判決ヲ經サルトキハ舊刑法ト刑法トノ規定ヲ比較シテ處斷セサル可カラズ(刑法第六條參照)於是乎刑法施行後ニ於テモ舊刑法ヲ適用スル場合ナキニ非ス、且ツ舊刑法ノ罪ト舊刑法ノ罪名ヲ有スル法令ノ罪トノ間ニハ常ニ舊刑法ノ總則適用セララル可ク殊ニ各

種ノ訴訟法規中ニハ舊刑法ノ罪別若クハ刑名ヲ掲ケ又ハ舊刑法ノ規定アルカ爲メ特ニ之ヲ規定スルノ必要ナシト認メ何等ノ規定ヲモ設ケサルモノ尠カラス從テ此等ノ法令ハ刑法施行セラレ舊刑法廢止セラレトキハ其ノ運用ニ支障ヲ生スルコトアルヘク或ハ少ナクモ舊刑法ニ據ルニ非サレハ之ヲ運用スルコト能ハサルモノヲ生ス可シ於是乎勢ヒ此等ノ關係ヲ規定シ舊法ト新法トハ過渡時代ニ於ケル各種ノ連絡ヲ保チ調和ヲ謀ルハ法規ナカル可カラズ是レ抑モ刑法施行法ハ因テ必要ナル所以ナリトス。

刑法施行法タルヤ以上ノ如キ目的ヲ有スルモノナルカ故ニ其規定スル所ノ内容ハ須ラク刑法又ハ刑法ノ刑名ヲ有スル法令ト舊刑法又ハ舊刑法ノ刑名ニ依リ刑ニ定メタル法令舊陸海軍刑法舊刑法施行前ノ法律ト同一效力ヲ有スル總テハ法規トハ關係ヲ定ムルコトニ亘ラサル可カラサルモノトス然レトモ本法ハ刑法又ハ刑法ノ刑名ヲ有スル法令ト舊陸海軍刑法トノ關係ニ付キテハ全ク之ヲ陸海軍刑法施行法ニ讓ルコト、爲シ此カ規定ヲ設ケサルコト、爲シタリ然レトモ之ニ反シテ刑法施行前ニ公布シタル總テノ法律ニ對スル關係ハ舉

テ皆規定スルコト、爲シタリ

以上述フル所ニ依リテ刑法施行法ノ規定タルヤ各種ノ法令ト複雑ナル關係ヲ有スルコト尋常一般ノ法律ノ比ニ非サルコトヲ推知スルニ足ル可シ殊ニ若シ夫レ新舊刑法ノ内容ニシテ相隔タルコト遠カラサレハ比較的簡易ノ經過法ニ依リ過渡時代ニ起ル可キ問題ヲ解決スルヲ得ヘシト雖モ若シ之ニ反シテ二者全ク其根源ヨリシテ其規定ヲ異ニスルトキハ種々ノ難問ヲ生シ一層ノ錯雜ヲ加フルコト辯ヲ俟タサルナリ而ルニ刑法ノ改正スル所ノモノ管ニ末葉ニ止マラスシテ舊刑法ノ轍ヲ去リ一新機軸ヲ出セリ即チ舊刑法ノ罪別ヲ廢止シ刑名ヲ變更シ併合罪及累犯ノ規定ヲ改正シ其他法定刑ノ範圍ヲ擴張シ又ハ各種ノ犯罪狀態ニ依ル罪種ヲ併合新設シタルカ如キ一トシテ大革命ナラサルハナシ從テ簡易ノ法則ヲ以テ新舊二法ヲ調和スルコトヲ得サル素ヨリナリトス本法ヲ難解ハモハタラシムルハ原由實ニ茲ニ存スル所以ナリトス宜シク法ヲ司リ法ヲ護ル職責ヲ有スル者ハ深ク之カ精神ヲ探リ其適用ヲ誤ラサランコトヲ努メサル可カラズ蓋シ之カ解釋ノ正當ナルト否トハ直ニ法ノ適用ニ尠カラズ

支障ヲ生スルト同時ニ臣民ノ權利義務ニ重大ノ影響ヲ及ホスモノアレハナリ
本法ハ全部六十七條ヨリ成リ其ノ規定ノ内容ハ將來ニ於テ起ル可キ實例ヲ
豫測シ現行法規ニシテ苟クモ刑法ノ規定ニ關係アルモノハ悉ク之ヲ網羅シタ
ルモノニシテ其實質上之ヲ大別シテ左ノ十綱目ト爲スコトヲ得ルモノトス。

第一 用語例(第一條)

第二 新舊法ノ刑ノ對照比較ニ關スル規定(第二條乃至第七條)

第三 刑法施行前ニ犯シタル罪ト刑法施行後ニ犯シタル罪トノ競合ニ關ス
ル規定(第八條乃至第十二條)

第四 舊法ノ刑ト刑法ノ規定トノ調和ニ關スル規定(第十三條乃至第十八條)

第五 刑ヲ定メタル他ノ法律ノ處置ニ關スル規定(第十九條乃至第二十七條)

第六 刑罰法條以外他ノ法令ノ人ノ資格其他ノ事項ニ關スル規定ト刑法ト
ノ調和ニ關スル規定(第十八條乃至第三十七條)

第七 刑事訴訟法ノ改正ニ關スル規定(第三十八條乃至第五十三條)

第八 刑ノ執行猶豫ニ關スル規定(第五十四條乃至第五十九條)

第九 賠償處分ニ關スル規定(第六十條第六十一條)

第十 訴訟費用ニ關スル規定(第六十二條乃至第六十七條)

第一節 用語例

本節ハ便宜ノ爲メ刑法施行前ニ公布セラレタル成文ノ法規ニシテ第二條以
下ニ於テ使用スル文字ノ意義ヲ規定シタルモノニテ第一條ノ規定スル所ナリ
トス。

第一條 本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十

六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ

公布シタル法律及ヒ勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力

ヲ有スルモノヲ謂フ

本條ハ上述ノ如ク本法各條ニ於テ使用スル用語ヲ定メタルモノニシテニア
リ曰ク(一)舊刑法(二)他ノ法律即チ是レナリトス而シテ舊刑法ハ明治十三年第三

十六號布告刑法ヲ指シ他ノ法律ハ刑法施行前ニ公布シタル三種ノ法令即チ法律勅令布告ヲ指稱スルモノトス。

茲ニ所謂(イ)刑法施行前ニ公布シタル法律トハ憲法制定前ニ於テ法律ノ名稱ヲ以テ公布セラレタルモノ例之明治二十一年法律第一號市町村制又ハ明治二十二年法律第一號徵兵令ノ如キ法規及ヒ憲法成定後ニ於テ大權ノ發動ニシテ帝國議會ノ協賛ヲ經タル總テノ法規ヲ指稱スル意ナリトス。

(ロ)刑法施行前ニ公布シタル法律ト同一ハ效力ヲ有スル勅令トハ憲法成定前ニ公布シタル勅令ニシテ憲法上ノ法律事項ニ關シ其性質憲法上ノ法律ト同視ス可キモノ例之ハ明治二十年勅令第七十五號新聞紙條例又ハ同年勅令第四十二號逃亡犯罪人引渡條例等ノ如キモノ及ヒ憲法成定後ニ於テ公布シタル勅令大權ノ發動ナルモ帝國議會ノ協賛ヲ經サルモノノ如キモノヲ謂フ意ナリトス。

(ハ)刑法施行前ニ公布シタル法律ト同一ハ效力ヲ有スル布告トハ憲法成定前ニ於テ公布シタル布告ニシテ其性質上憲法上ノ法律ト同視スヘキモノ例之明治十五年第四十三號布告徵發令又ハ明治十八年第三十一號布告違警罪即決例ノ如キ

モノヲ謂フノ意ナリトス。

以上三種ノ法令カ即チ本條其他ノ法律ト稱スルモノニシテ彼ノ舊陸海軍刑法明治十四年第六十九號布告及ヒ同年第七十號布告(ハ)上ニモ述ヘタル如ク本條所謂其ノ他ノ法律中ニ包含セラレサルモノナリトス從テ本法第二條ヲ始メ第六條乃至第十二條第十九條及ヒ第二十條乃至第二十三條等ハ舊陸海軍刑法ト何等ノ關係ナキモノナリトス蓋シ舊陸海軍刑法ハ普通刑法ト獨立シテ罪別及ヒ刑名ヲ設ケタルモノニシテ假令此二法ニ定メタル主刑ハ舊刑法ノ主刑ト其名稱ヲ同一ニスト雖モ其實全ク別異ノ刑ナレハナリトス。

而シテ又本條所謂他ノ法律ナル文字中ニハ本法第十九條ニ依リ刑名ヲ變更セラレタル法律ハ之ヲ包含セサルモノナリトス蓋シ本法ハ上ニモ述ヘタル如ク舊法ト新法トノ關係ヲ定ムルヲ以テ其目的ト爲スニ拘ラス他ノ法律中ニ本法ニ依リ刑名ヲ變更セラレタル法律ヲ含マシムルトキハ此ノ兩者ノ區別ヲ混亂シ延テ本法ヲシテ支離滅裂殆ト實用ニ供スル能ハサルニ至ラシム可ク且ツ本條原案ニ徵スルモ而カ解釋スルヲ妥當ト爲レハナリトス。

本條所謂他ノ法律ハ之ヲ法律及ヒ勅令布告ニシテ法律ト同一效力アルモノ
 ミニ限定シタルヲ以テ法律ト同一ノ效力ヲ有セサル普通勅令閣令省令及ヒ
 府縣令等ハ之ヲ包含セサルモノナリトス是レ蓋シ本法第十九條ノ規定存スル
 カ爲メニシテ若シ此等ノモノヲモ尙本條其他ノ法律中ニ包含セシムルニ於テ
 ハ後日同種ノ命令ヲ以テ其規定ノ變更ヲ爲ス能ハサルニ至ル可ケレハナリト
 ス(若シ之ヲ爲スニ於テハ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコト、爲リ憲法ニ違反ス
 レハナリ)而シテ此等ノ小法令ト刑法トノ關係ニ付キテハ更ニ勅令ヲ以テ本法
 中他ノ法律ニ關スル規定ヲ之ニ準用スルノ意ナリトス。

第二節 新舊法ノ刑ノ對照比較ニ關スル規定

本節ハ主トシテ刑法施行前ハ犯罪ニシテ未タ判決濟ニ至ラサル事件ヲ刑法
 施行後ニ於テ處理スル所謂經過法中ハ原則ヲ規定シタルモノニシテ第二條乃
 至第七條ニ規定スル所ハモ、ハ即チ是ナリトス蓋シ刑法ハ其第六條ニ於テ犯罪
 後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス下ノ規定ヲ設ケ

タルヲ以テ刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後裁判ヲ爲スニハ常ニ其
 何レノ法律ノ刑カ輕キヤラ比較セサル可カラズ而シテ其刑カ同一ナルトキハ
 別ニ困難ヲ感スルコトナシト雖トモ若シ其刑カ異ナルトキハ假令適々其ノ名
 稱カ同一ナル場合ニ於テモ先ツ其刑ヲ對照シ然ル後刑期其他ノ條件ヲ比較シ
 以テ其輕重ヲ定ムルノ面倒ヲ爲サ、ル可カラス依テ本節ハ此原則ヲ活用セシ
 カ爲メニ必要ナル規定ヲ設ケタルモノナリトス。

第二條 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯

シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ

主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

刑法ノ刑 舊刑法ノ刑

死刑 死刑

無期懲役 無期徒刑

無期禁錮 無期流刑

有期懲役

有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮

有期禁錮

有期流刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮

罰金

罰金

拘留

拘留

科料

科料

本條ハ新舊二法ノ輕重ハ主刑ノ輕重ニ依リ之ヲ定ムルコト、シ、又舊刑法ト
刑法トハ其刑名ヲ異ニスルヲ以テ新舊二法ノ主刑ノ對照ヲ定メ依テ舊刑法ノ
主刑ヲ刑法ノ主刑ニ改メ而シテ刑法第十條ニ從ヒ其輕重ヲ定ムルコト、爲シ
以テ刑法第六條ノ適用ニ必要ナル對照及比較ノ準則ヲ規定シタルモノナリト
ス。

本條所謂刑法ハ刑又ハ舊刑法ハ刑トハ刑法又ハ舊刑法ニ於テ採用シタル刑
ト云フ義ニシテ刑法又ハ舊刑法規定ノ罪ニ科シタル刑ハ勿論刑法又ハ舊刑法
ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル特別法規定ノ罪ニ科シタル刑モ又總テ之ヲ包含セ

シムルノ意ナリトス而シテ本條ノ對照ハ舊刑法ノ自由刑ヲ定役アルモノ(徒刑
懲役、重禁錮)ト定役ナキモノ(流刑、禁獄、輕禁錮)トニ區別シ前者ハ之ヲ刑法ノ懲役
ニ後者ハ之ヲ刑法ノ禁錮ニ該當スルモノトシ其他ハ新舊ノ刑法其刑名ヲ同ク
スルヲ以テ互ニ相該當スルモノト認メタリ而シテ此對照ニ依リ刑法第十條ニ
基キ其輕重ヲ定ムルコト、爲シタリ即チ死刑ハ最モ重ク次ハ無期懲役又ハ無
期徒刑次ハ無期禁錮又ハ無期流刑次ハ有期懲役又ハ有期徒刑、重懲役、輕懲役、重
禁錮ナルカ如ク以下次第ニ其刑輕キモノトナルナリ詳細ニ付キテハ刑法第十
條ニ依リ判定セラル可シ(拙者新刑法逐條義解第四十九頁參照)

本條所謂他ハ法律ハ罪ヲ犯シタル場合トハ例ヘハ遺失物法第十六條規定ノ
罪ヲ犯シ因テ刑法第二百五十四條トノ關係ヲ生セシメタルカ如キ又ハ本法第
二十四條ニ依リ廢止セラレタル明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三
年法律第九十九號規定ノ罪即チ屋外竊盜罪又ハ議員保護ニ關スル法中ノ罪ヲ
犯シ因テ其結果刑法ノ竊盜罪又ハ傷害罪トノ關係ヲ生セシメタルカ如キ(蓋シ
如上ノ法律ハ特別法ナルヲ以テ若シ廢止セラレザルニ於テハ特別法ハ一般法

ニ優ルノ原則ニ依リ刑法ヲ一般法ノ適用セラルコトナシト雖モ本法第二十四條ニ依リ此等ノ法律ハ廢止セラレタルモノナルヲ以テ刑法トノ關係ヲ生シ本條ノ適用ヲ受クルニ至ルモノナリトス(ス)場合ヲ謂フモノナリトス。

第三條

法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

照ヲ爲ス可シ

數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ二個以上ノ主刑中其一個ヲ科ス可キトキハ其中ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲ス可シ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス可キトキ亦同シ

本條ハ刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後裁判ヲ爲ス場合ニ前條ニ

依リ新舊二法ノ刑ノ對照ヲ爲ス順序方法ヲ定メタルモノナリトス從テ本條ハ決シテ舊刑法ノ罪ト刑法ノ罪トヲ同時ニ裁判スル場合ニ關スル規定ニ非ス只刑法第六條ノ規定ニ依リ其輕キモノヲ適用スル爲メニノミ用弁ラルヘキ對照ノ手續規定ナリトス。

本條第一項ハ前條ノ趣旨ニ基キ新舊二法ノ輕重ヲ定ムルニ當リテ其主刑タルヤ各本條ニ定ムル法定ノ刑ナルヤ將タ總則ヲ適用シ加減シタル刑ナルヤ不明ナルヲ以テ之ヲ解決シ斯ル場合ニハ常ニ其加減シタル主刑ヲ以テ法ノ輕重ヲ定ム可キコトヲ規定シタルモノナリトス蓋シ元來法律カ本條ニ定メタル刑ハ通常ノ場合ヲ豫想シタルモノニシテ若シ特種ノ事情存在スル場合ニ於テ初メテ其刑ヲ重クシ又ハ輕クスルノ趣旨ヲ以テ特ニ法律ハ加重又ハ減輕ニ關スル規定ヲ設ケタルモノナリ從テ或ル罪ニ科スヘキ刑ハ常ニ此等ノ加重又ハ減輕ヲ爲シタルモノニシテ必ラスシモ各本條ニ定メタル刑ナリト謂フヲ得サレハナリ今之ヲ例ヘハ刑法施行前貨幣偽造罪ヲ犯シ未タ遂ケサリシ者アルトキハ一方舊法ニ於テハ舊刑法第八十六條第一項ニヨリ同第八十二條ノ刑ニ

一等又ハ二等ヲ減シ有期徒刑トシ更ニ酌量減輕ヲ爲スヘキトキハ之ニ一等又ハ二等ヲ減シ重懲役何年ト爲シ以テ其對照ス可キ刑ヲ定メ又他方新法ニ於テハ刑法第四百十八條ノ刑ニ第四十三條ヲ適用シテ減輕シ有期ノ懲役ト爲シ更ニ酌量スヘキトキハ第六十六條及第六十七條第七十一條ニ依リ刑期二分ノ一ヲ減シテ何年ノ懲役ト爲シ以テ其對照ス可キ刑ヲ定メ而シテ後前條ヲ適用シ舊法ノ重懲役何年ト新法ノ懲役何年トヲ比較シ其輕重ヲ定ム可キモノナリトス依テ之ヲ要スルニ本條第一項ハ新舊二法ノ刑ヲ對照スルニ當リテハ宜シク加重減輕例ヲ適用シタル上ニ於テ對照ス可シトハ順序ヲ定メタルニ過キサレモハナリトス。

本條第二項ハ數罪ヲ犯シタル者ニ付キテハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ハ適用ニ因リテ生ス可キ刑ヲ對照シ以テ其輕重ヲ定ムヘキコトヲ規定シタルモハナリトス故ニ本項ニ依レハ刑法施行前ニ犯シタル數罪ニ付キ刑法施行後裁判ヲ爲ス場合ニハ單ニ新舊法ノ各本條ニ定メタル刑ヲ個々ニ比較對照スルコトナク先ツ一方ニ於テハ第一ニ舊法ヲ適用シ數罪俱發例ニ依リ罰ス可キ

重キ罪ノ刑ヲ定メ他方ニ於テハ新法ヲ適用シ併合罪ニ關スル規定ニ依リ加重シタル刑ヲ定メ然ル後此二者ノ刑ヲ對照ス可キモノナリトス之ヲ例ヘハ刑法施行前ニ犯シタル舊刑法ノ強盜竊盜ノ二罪ニ付キ刑法施行後ニ裁判ヲ爲スニハ先ツ第一ニ一方ニ於テ此二罪ニ數罪俱發例(舊法第百條)ヲ適用シ一ノ重キ強盜罪ニ從テ重懲役ト爲シ他方ニ於テハ此二罪ニ併合罪例(刑法第四十七條)ヲ適用シ強盜罪ノ刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ長期トシ十五年以下ノ懲役ト爲シ然ル後ニ前條ニ依リ舊刑法ノ重懲役ト刑法ノ十五年以下ノ有期懲役トヲ對照シ其輕重ヲ比較スルモノトス然ルトキハ舊刑法ノ重懲役ハ九年以上十年以下ナルヲ以テ舊刑法ノ刑カ刑法ノ刑ヨリモ輕キコトヲ知ル可シ。

本條第三項ハ二個以上ハ主刑ヲ對照比較スル場合ニ關シ規定シタルモハニシテ本項ニ依レハ一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ數罪ノ主刑ヲ併科スヘキトキニハ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲シ他ノ刑ヲ以テ輕重ヲ定ムルノ標準ト爲ス可カラサルコトナルモノナリトス即チ之ヲ詳説セハ

(一) 一罪ニ付キ二個以上ハ主刑ヲ併科ス可キ場合例ヘハ何年ノ重禁錮及何圓

ノ罰金ニ處ストノ如ク二刑共ニ科スル場合(刑法第二百五十六條第二項ノ如シ)

(二) 二個以上ハ主刑中其一個ヲ科ス可キ所謂選擇刑ノ場合例ヘハ何月以上何年以下ノ重禁錮又ハ何圓以上何圓以下ノ罰金ニ處ストノ如ク二刑中其一

一ヲ科スル場合(刑法第二百二十三條ノ如シ)

(三) 併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ數罪ハ主刑ヲ併科スヘキ場合例ヘハ罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ストアルカ如キ場合(刑法第四十八條舊刑

法第一百一條ノ如シ)

以上ハ如キ場合ニ在リテハ常ニ其中ハ重キ刑ハミニ付キ比較對照ス可キモハナリトス例ヘハ舊法ハ三年以下ノ重禁錮ニ處ストアリテ新法ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ストアルカ如キ場合ニハ常ニ三年以下ノ重禁錮ニ對シ十年以下ノ懲役ヲ對照ス可キノミ(蓋シ懲役ハ罰金ヨリモ重ケレハナリ) (舊刑法第三百九十九條第四百條刑法第二百五十六條參照)又或ハ舊法ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シトアリ新法ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ貳百

圓以下ノ罰金ニ處ストアルカ如キ場合ニハ常ニ新法ノ二年以下ノ懲役ト舊法ノ一月以上二年以下ノ重禁錮トヲ比較ス可キノミナルカ如シ(蓋シ禁錮ハ罰金ヨリモ重ク懲役ハ禁錮ヨリモ重ケレハナリトス)

第四條 刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告

訴ヲ待テ論ス可キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セサルモノト雖モ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ

論セス

本條ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス可キ親告罪タル舊法ハ罪ヲ犯シタルモノハ假令其罪新法ニ於テ親告罪ニアラサル場合ニ於テモ尙ホ告訴ヲ要スルコトヲ規定シタルモノナリトス蓋シ斯ク新法ニ於テ告訴ヲ要セス檢事ノ職權ヲ以テ起訴スト爲シタル罪ト雖モ苟クモ舊法ニ於テ告訴ヲ要スト爲シタル罪ヲ新法施行後犯シタル場合ニハ同シク告訴ヲ要スト爲シタル所以ノモノハ元來告訴ヲ待テ其罪ヲ論スルハ犯人ノ利益ナリ然ルニ之ヲ無視シ告訴ヲ要セスト爲スハ

被害者及ヒ犯人ノ豫期ニ反シ嚴ニ失スルノ嫌ナキ能ハス且ツ斯ル親告罪ヲ犯シタル者ハ告訴ナキ場合ニハ法律上始ヨリ罪ト爲ラサル行爲ヲ爲シタルモノト異ナラス然ルニ新法ニ於テ之ヲ罪トスルノ故ヲ以テ其施行以前ノ行爲ニ遡及セシムルハ抑モ刑法ノ原則ニ反スルモノナルヲ以テナリ而シテ本條ノ目的ハスル所ハ畢竟刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論ス可キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セサルモノト雖モ告訴アリタルトキニ限リ始メテ新舊法ヲ對照シ刑法第六條ニ依リ其輕キ刑ヲ適用スルトハ趣旨ニ外ナラサルナリトス。

本條ノ適用ニ關シテハ刑法中其例ヲ見出スヲ得ス唯舊刑法第三百二十六條以下ノ脅迫罪ハ刑法第二百二十二條ニ依リ告訴ヲ要セサルニ至リシト雖モ此場合ニ在リテハ舊法ノ刑新法ノ刑ヨリモ輕ク當然舊法ノ規定適用セラル、コト、ナルヲ以テ結局本條ノ適用ヲ見ルノ必要ナシトス尙ホ他ノ法律中ニモ明治二十二年法律第二十八號議員保護法第四條ノ罪ハ刑法第九十五條第二項ニ依リ告訴ヲ要セサルニ至リシモノナリト雖モ同シク刑法ノ規定スル所ノ刑重

キヲ以テ結局本條ノ適用ヲ受クルコトナシトス該法律第二十八號ト刑法トノ關係ニ付キテハ第二條ノ說明ヲ參照ス可シ。

第五條 刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス

ル場合ニ於テハ剝奪公權停止公權監視又ハ罰金ヲ附加ス可キトキト雖モ之ヲ附加セス

本條ハ新舊二法對照ノ結果輕シト認メラルハ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スルニ至リタルトキト雖モ新法ニ於テ現ニ廢止シタル附加刑ハ之ヲ科ス可カラサル旨ヲ規定シタルモノナリトス蓋シ元來刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後裁判ヲ爲ス場合ニハ第二條及第三條ニ依リ主刑ヲ對照比較シ若シ舊法ノ刑輕キトキハ舊法ヲ適用スルト同時ニ特別ノ明文ナキ限りハ舊刑法ノ總則ニ依リ又ハ各法律ノ特別規定ニ依リ剝奪公權停止公權監視又ハ罰金等ノ附加刑ヲモ科セサル可カラサルナリト雖モ此等ノ附加刑ハ刑法ニ依リ全ク廢止ヒテレ刑法中之ト對照ス可キ刑ヲ見ス之ニ拘ラス刑法施行後此等人附加刑ヲ

科ストセハ決シテ妥當ナラサルヲ以テ此場合ニハ舊刑法ノ主刑ノミヲ科シ此等ノ附加刑ハ之カ科セサルコト、爲シタルモノナリトス。

第六條

刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行ノ前又

ハ後ニ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪

ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

- 一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

- 二 確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シタルトキト雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ數罪

俱發ニ關スル規定ニ依ル

本法ハ頗ル難解ノ法律ナルカ就中本條ハ最モ難解ノ規定ニシテ而モ最モ重要ナル規定ノ一ナリトス。本條ノ大意ヲ知ラント欲スルニハ豫メ舊刑法數罪俱發例及ヒ刑法併合罪例ヲ熟知シ置カレンコトヲ

本條ハ刑法施行前ニ犯シタル罪ハ確定裁判ト爲リタル他ノ罪ニ對シテ餘罪ハ關係ヲ有スル場合ニ於テ此餘罪ニ付キ裁判ヲ爲スル當リ適用ス可キ準則ヲ規定シタルモノナリトス。蓋シ數罪ヲ犯シタル場合ニ付テハ第三條第二項ノ規定アリト雖モ此ノ規定ハ刑法施行前ニ犯シタル數罪ヲ刑法施行後同時ニ裁判スル場合ニ非サレハ直ニ之ヲ適用スルコト能ハサルナリ何トナレハ其ノ數罪ニ共ニ舊法ヲ適用スルカ共ニ新法ヲ適用スル場合ニ非サレハ之ニ併合罪ニ關スル規定モ又數罪俱發ニ關スル規定モ適用スルコト能ハサルハナリ。從テ若シ刑法施行前ニ犯シタル數罪中或ル罪先ツ發覺シ之ニ付キ確定裁判アリタル後其餘罪ヲ發覺シタルカ如キ場合ニハ直ニ第三條第二項ノ規定ヲ適用シテ新舊法ノ刑ノ對照ヲ爲スコト能ハサル可シ爲メニ其結果前發ノ罪ト餘罪トノ關係

ニ付キ數罪俱發例ニ依ルカ又ハ併合罪ニ關スル規定ニ依ルカ準據スル所ナキニ至リ結局新舊法ノ刑ノ對照ヲ爲スコト能ハサルニ至ル可シ爰ヲ以テ本法ハ本條ヲ設ケ此ノ如キ場合ニ第三條第二項ヲ適用スル方法ヲ定ムルト同時ニ此ノ如キ餘罪ノ處斷方法ヲ定メタル所以ナリトス而シテ刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行ノ前ニ確定裁判アリタルトキハ常ニ舊刑法ノ刑ノ言渡アリ又刑法施行前ノ罪ニ付キ刑法施行後ニ確定裁判アリタルトキハ新舊二法ノ比照ニ依リ舊刑法ノ刑ヲ言渡ス場合ト刑法ノ刑ヲ言渡ス場合トアリ依テ本條ハ此二場合ヲ別チ第一號ニ於テハ確定判決ヲ以テ舊刑法ノ刑ヲ言渡シタル場合ヲ規定シ第二號ニ於テハ確定判決ヲ以テ刑法ノ刑ヲ言渡シタル場合ヲ規定シタルモノトス。

本條第一號ハ前發ハ罪ニ舊法ヲ適用シタル場合ハ規定ニシテ之ヲ例ヘハ刑法施行前甲及乙ナル二罪ヲ犯シタル者アリテ甲先ツ發覺シテ之ニ付キ舊法ヲ適用シテ確定裁判アリタル後乙ナル餘罪發覺シタル場合ノ規定ナリトス而シテ其餘罪タル乙ニ舊刑法ノ適用ヲ試ルトキハ直ニ第三條第二項ニ依リ數罪俱

發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ若シ此場合ニ於テ餘罪乙ニ對シ刑法ノ適用ヲ試ルトキハ餘罪乙ト確定裁判トナリタル甲罪トハ交モ適用ノ法律ヲ異ニスルヲ以テ新法ニ從テ併合罪ノ規定ヲ適用スヘキヤ將タ舊法ニ從テ數罪俱發ノ規定ヲ適用スヘキヤノ疑ヲ生ス可シ之ヲ以テ本條第一號ハ此疑ヲ避ケル爲メ此ハ如キ場合ニハ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス可キコトハ爲シ以テ始メテ第三條第二項ハ例ニ依ルコトヲ得セシメタルナリトス依テ今之ヲ例示センカ明治四十一年三月及四月ニ於テ竊盜罪(甲)ト強盜罪(乙)トヲ犯シタル者アリテ甲罪ハ同年六月ニ於テ發覺シ舊法ニ從ヒ何年カノ判決ヲ受ケタリト假定シ尙ホ刑法施行後ニ至リ乙罪發覺シ此餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ先ツ第一ニ甲ト乙トニ付キ舊法ノ數罪俱發例(舊刑法第百二條)ヲ適用シ一ノ重キ罪ノ刑(イ)刑ヲ定メ次ニ甲ニ舊法ヲ乙ニ新法ヲ適用シテ併合罪ニ關スル規定(刑法第五十條)ニ依リテ(ロ)刑ヲ定メ然ル後本法第二條ニ依リテ(イ)ト(ロ)トノ二刑ノ對照ヲ爲シ以テ其輕重ヲ定メ刑法第六條ヲ適用スルモノトス

本條第二號ハ前發ハ罪ニ新法ヲ適用シタル場合ニ關スル規定ニシテ之ヲ例ヘハ刑法施行前甲及乙ナル二罪ヲ犯シタル者アリテ刑法施行後ニ至リ甲先ツ發覺シ之ニ付キ新法ヲ適用シテ確定裁判アリタル後乙ナル餘罪發覺シタル場合ノ規定ナリトス而シテ此餘罪タル乙ニ對シテ新法ノ適用ヲ試ルトキハ別段ノ明文ヲ要セスシテ刑法併合罪ノ規定ヲ適用スルヲ得ヘク從テ直ニ第三條第二項ニ依ルコトヲ得ヘシト雖モ此餘罪乙ニ對シテ舊刑法ヲ試ルトキハ前發ノ場合ト同シク疑義ヲ生スヘシ依テ本號ハ此ノ如キ場合ニハ前發ノ罪甲ト餘罪乙トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用ス可キコト、爲シ茲ニ始メテ第三條第二項ノ例ニ依ルコトヲ得セシメタルモノナリトス故ニ本號ニ依リ甲乙二罪ヲ對照處斷スルニハ先ツ第一ニ甲ト乙トニ付キ併合罪ニ關スル規定(刑法第五十條)ヲ適用シテ(イ)ナル刑ヲ定メ然ル後ニ又甲ニ新法乙ニ舊法ヲ適用シ數罪俱發ニ關スル規定(舊刑法第百二條)ヲ適用シテ一ノ重キ罪ノ刑(ロ)ヲ定メ而シテ第二條ニ依リ(イ)ト(ロ)トノ對照ヲ爲シ以テ其輕重ヲ定ムルモノトス。

本條所謂刑法ハ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令トハ新ニ制定セラレタルモノ

ト本法第十九條ニ依リ刑名ヲ變更セラレタルモノトヲ問ハス苟クモ刑法ノ刑名ヲ有スル法令ハ凡テ之ヲ包含スルモノトス。本條ノ意義ニ付テハ拙著新刑法逐條義解第一編第九章ヲ參照セラレタシ。

第七條

左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲

役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ

裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メ

タル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當ス

ル刑ニ處セラレタル者

二 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當ス

ル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其

執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑

ニ減刑セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定

ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

本條ハ刑法施行前刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者カ刑法施行前更ニ刑法ハ有期懲役ニ相當スル刑ニ當ル罪ヲ犯シ刑法施行後其ハ罪ニ付キ裁判スル場合ニ關スル規定ナリトス蓋シ再犯ノ事ニ關シテハ既ニ第三條一項ニ於テ之ヲ規定シタリト雖モ此ノ規定ハ初犯ニモ再犯ニモ共ニ新法ヲ適用スルカ又ハ共ニ舊法ヲ適用スル場合ニ非サレハ之ヲ直ニ適用スルコト能ハサルナリ故ニ初犯ノ罪ニ付テハ舊法ヲ適用シ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル刑法第五十六條所謂累犯ノ罪ニ付キ裁判ヲ爲サントスルトキニハ之ニ新法ヲ適用スルニハ舊刑法ノ再犯例ニ依ルヘキヤ又ハ刑法ノ累犯ニ關スル規定ニ依ルヘキヤノ疑義ヲ生ス可シ依テ本條ハ此疑義ヲ避クル爲メ此ハ如キ場合ニハ累犯ニ關スル規定ヲ準用シ以テ第三條第一項ニ基キ新舊法ハ刑ハ輕重ヲ定ム可シト爲シタルモノナリトス

本條第一項ハ規定ニ從ヘハ舊刑法ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレ

レタル者又ハ舊刑法ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得文ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル甲ナル罪ヲ犯シ刑法施行後其甲罪ニ付キ裁判ヲ爲サントスルニ當リテハ先ツ第一ニ一方ニ於テハ甲罪ニ付キ舊法ヲ適用シ且ツ舊刑法ノ再犯例ニ依リイナル刑ヲ定メ而シテ他方ニ於テハ甲罪ニ新法ヲ適用シ刑法ノ累犯ニ關スル規定ヲ適用シロナル刑ヲ定メ然ル後第二條ニ依リ(イ)ト(ロ)ト對照シ新舊法ノ刑ノ輕重ヲ定ム可キモノナリトス今之ヲ例示センニ刑法施行前舊法ノ重懲役ノ刑ニ處セラレタル者刑法施行前ニ於テ更ニ強盜罪ヲ犯シタリト假定シ此強盜罪ニ付キ刑法施行後裁判ヲ爲サントスルニハ先ツ一方ニ於テ本法第三條第一項ニ從ヒ舊刑法第三百七十八條ニ第九十一條ヲ適用シ一等ヲ加ヘ(イ)有期徒刑ト爲シ他方ニ於テハ本條第一項ノ規定ニ從ヒ刑法第二百三十六條ニ同第五十六條第一項及ヒ第五十七條ヲ適用シ長期ヲ二倍トシ本法第三條第一項ニ從ヒ(ロ)十年以上ノ有期懲役ト爲シ然ル後本法第二條ニ從ヒ(イ)ト(ロ)ト對照スレハ新法ノ輕キコ

ト明ナルカ故ニ之ヲ適用シテ處斷ス可キモノナリトス舊刑法第十七條刑法第十二條參照)

本條所謂刑法ハ懲役又ハ有期懲役ニ相當スル刑トハ第二條ノ對照ニ從ヒ有期徒刑重懲役輕懲役又ハ重禁錮ノ刑ヲ謂フモノトス而シテ本條カ始メ懲役刑ニ該ル罪ヲ犯シ處刑セラレタル者カ更ニ懲役刑ニ該ル罪ヲ犯シタル場合ニ限リ規定シタル所以ハ刑法第五十六條ノ趣旨ニ遵據シタルモノナリトス即チ本條第一項第一號ニ掲クル者ハ刑法第五十六條第一項ニ相當シ第二號ニ掲クル者ハ同條第二項ニ相當スルモノナリトス。

本條第二項ハ併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタル場合ニ關スル刑法ハ規定(刑法第五十六條第三項)ヲ舊刑法ハ數罪併發例ニ準用シタルモノナリトス蓋シ本條ノ場合ハ總テ刑法累犯ノ規定ニ準シタルモノナレハナリ依テ本項ニ從ヘハ舊法ノ數罪併發ノ例ニ依リ處斷シタル場合ニ於テ數罪中徒刑懲役又ハ重禁錮ノ刑ニ處ス可キ罪アリシトキハ其罪最重ノモノニ非カリシトキト雖モ仍ホ之ヲ累犯ノ基礎ト爲スモノナリトス本條ノ意義ニ付キテハ拙著新刑法逐條義

解第一編第十章ヲ參照セラレタシ。

第三節

刑法施行前ニ犯シタル罪ト刑法施行後ニ犯シタル罪トノ競合ニ關スル規定

本節ハ刑法施行前ニ犯シタル罪ト刑法施行後ニ犯シタル罪ト競合シタル場合ハ處分ニ關スル規定ニシテ第八條乃至第十二條ハ規定スル所ナリトス蓋シ刑法施行前ニ犯シタル數罪ハ特別ノ規定アルモノヲ除キテハ總テ舊刑法數罪併發又ハ再犯ノ規定ニ依リ處斷ス可ク刑法施行後ニ犯シタル數罪ハ特別規定アルモノ、外總テ刑法ノ併合罪又ハ累犯ノ規定ニ依リ處斷スヘキモノナリト雖モ刑法施行前ノ罪ト刑法施行後ノ罪トノ關係ニ付キテハ新舊何レノ規定ニモ豫想セサル所ナルヲ以テ單ニ新舊二法ニ依リ之ヲ處斷スルヲ得ス爰ヲ以テ本法ハ本節ノ規定ヲ設ケ此等ノ關係ヲ定ムルコト、爲シタルモノナリトス。

第八條 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シ

タル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

本條ハ刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ關スル規定ナリトス蓋シ如上ノ場合ニ於テハ刑法第六條ノ規定ニ依リ新舊法中輕キモノヲ適用スルニ至ルノ結果刑法施行前ニ犯シタル一罪ニ對シテハ或ハ新法ヲ適用スルニ至ルコトアルヘク又或ハ舊法ヲ適用スルニ至ルコトアル可シ若シ其新法ヲ適用スルニ至リシ場合ニ於テハ其施行前ノ罪ト施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ新法ニ從テ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス可キト素ヨリ言フ俟タズシテ明ラカナリト雖モ若シ其施行前ノ罪ニ舊法ヲ適用スルニ至リシ場合ニ於テハ其罪ト施行後ノ罪トニ付キ數罪俱發例ニ依ル可キヤ將タ併合罪例ニ依ル可キヤ疑ナキヲ得サル可シ於是乎

本法ハ此疑義ヲ避ケンカ爲ハ本條ノ規定ヲ設ケ此ハ如キ場合ニ於テモ尙ホ併合罪ニ關スル規定ヲ準用スルコトニ爲シタルモノナリトス故ニ之ヲ例ヘバ刑法施行前失火ノ罪ヲ犯シタル者刑法施行後ニ於テ更ニ往來妨害罪ヲ犯シ今同時ニ之ヲ裁判スルト假定センカ先ツ第一ニ刑法第六條ニ從ヒ施行前ノ犯罪タル失火罪ニ付キ新舊法ヲ對照スルニ(刑法第一百十六條舊法ノ刑新法ノ刑ヨリモ輕キヲ以テ舊刑法第四百九條ヲ適用スルコト、シ而シテ此罪ト施行後ノ往來妨害罪トニ付キテハ本條ノ規定ニ依リ併合罪例ニ從ヒ刑法第四十八條ノ規定ヲ適用シ新舊法ヲ併合シテ二年以下ノ懲役及ヒ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金又ハ貳百貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノト爲スカ如シ(刑法第二百二十四條)

第九條

刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シ

タル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ

重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ刑法ノ罪名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ其數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

本條ハ刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ關スル規定ニシテ前條ト殆ト同一場合ニ付キ規定シタルモノナレトモ其別ニ規定シタル所以ハ前條刑法施行前ニ犯シタル罪カ唯一個アル場合ニ關シ本條ハ其罪カ數個アル場合ニ關スルニテ如斯場合ニハ本法第三條第二項ノ適用アルカ爲メ前條ノ場合ノ如ク單純ナル處置ニ出ツル能ハサレハナリトス

本條第一項ハ刑法施行前ニ犯シタル罪ニ刑法第六條ニ依リ舊法ヲ適用スヘ

キ場合ニ關スル規定ニシテ之ヲ詳言セハ刑法施行前ノ罪數個アルトキハ之ニ對シ本法第二條及ヒ第三條第二項ヲ適用シ以テ刑ノ對照ヲ爲サ、ル可カラス而シテ舊法ノ輕キコトヲ認メ舊刑法ヲ適用スルニ至リタルトキハ先ツ之ニ數罪俱發例ノ規定ヲ適用シテ一ノ重キ罪ヲ定メ而シテ之ト刑法施行後ノ罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス可キコトヲ規定シタルモノトス蓋シ刑法施行前ノ數罪タルヤ舊法ニ依リ處斷セラルヘキモノナルヲ以テ舊法ノ精神ヲ貫徹スル爲メ其總則ヲ適用スルノ要アル可ク而シテ又其之ヲ適用シテ罰ス可キ一ノ重キ罪ヲ定メタル上ハ全ク前條ト同一ノ場合トナルヲ以テ之ト刑法施行後ノ罪トニ付キテハ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス可キハ當然ノコトナルカ故ニ因テ本條ノ規定ヲ設ケ此理ヲ明ラカニシタルモノナリトス而シテ本條所謂舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ定マリタル云々トハ舊法ノ規定上數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用スルコトヲ得ヘキ數罪ニ付テノミ適用アルモノナルコト勿論ナリトス從テ之ヲ適用スルコト能ハサル税法違犯ノ罪ノ如キモノニハ全ク關係ナキモノトス今本條ノ適用ヲ例示

セシカ刑法施行前強盜罪及ヒ窃盜罪ヲ犯シ刑法施行後更ニ横領罪及ヒ贖物故買罪ヲ犯シ此等ノ罪ニ付キ同時ニ裁判スルトキハ先ヅ刑法施行前ノ二罪ニ付キ刑法第六條ニ依リ舊刑法ヲ輕シトシテ之ヲ適用スヘキヤ論ヲ俟タス(舊刑法第三百七十八條以下及同第三百六十六條以下及ヒ刑法第二百三十五條及ヒ第二百三十六條參照)而シテ此場合ニ舊刑法ヲ適用シ本法第三條第二項ニ從ヒ舊法第百條ニ依リ重キ強盜罪ヲ以テ論シ然ル後此強盜罪ト刑法施行後ノ横領罪及ヒ贖物故買罪ニ對シ刑法第四十七條ヲ準用シ重キ贖物故買罪ノ長期ニ半數ヲ加ヘタルモノ即チ十五年以下ノ懲役及千五百圓以下ノ罰金ニ處ス可キモノナルカ如シ(舊刑法第三百七十八條刑法第二百五十二條及ヒ同第二百五十六條第二項參照)

本條第二項ハ刑法施行前ハ罪數個アルトキ本法第二條及第三條二項ヲ適用シ以テ刑ノ對照ヲ爲シタル結果新法ハ輕キコトヲ認シ刑法ヲ適用スルニ至リタルトキハ其數罪ト刑法施行後ハ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用スヘキコトヲ規定シタルモノナリトス蓋シ本項ノ規定ハ一見蛇足ニ過

キサルノ觀アリト雖モ本項規定ノ如キ場合ニアリテハ或ハ刑法施行前ノ數罪ニ對シテモ併合罪ノ規定ヲ適用セサル可カラサルカ如ク觀セラレ其結果刑法施行前ノ罪ニ併合罪ノ加重ヲ爲シタル後更ニ刑法施行後ノ罪ト共ニ併合罪ノ規定ヲ適用スルニ至リ再ヒ加重ヲ爲スカ爲メ併合罪ノ規定ハ二重ニ適用セラレ加重相累リ酷ニ失スルノ嫌アルヲ以テ本法ハ本項ノ規定ヲ設ケ刑法施行前ノ數罪ニ新法ヲ適用シタルトキハ併合罪例ヲ適用セス數罪ヲ分解シテ數個ノ獨立ノ罪ト爲シ此數罪ト刑法施行後ノ罪トニ對シ始メテ併合罪ノ規定ヲ準用スルコト、爲シタルモノナリトス。

今本條第二項ノ適用ヲ例示センニ刑法施行前強盜罪(舊刑法第三百四十八條刑法第七十七條)及ヒ姦通罪(舊刑法第三百五十三條刑法第八十三條)ヲ犯シ刑法施行後更ニ逃走罪(刑法第九十七條)及ヒ家宅侵入罪(刑法第三百三十條)ヲ犯シ此等ノ四罪ニ付キ同時ニ裁判スルトキハ先ヅ刑法施行前ニ犯シタル二罪ニ付キ新舊二法ノ刑ノ輕重ヲ對照シ刑法第六條ニ依リ新法ヲ適用スルコト、爲シ而シテ此二罪ト刑法施行後ニ犯シタル二罪トニ對シ刑法第四十七條ヲ適用シ

重キ強姦罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノ即チ二十年以下ノ懲役刑法第十二條及ヒ第十四條参照ニ處スヘキコト、爲ルカ如シ。

第十條

刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ確定裁判アリタル罪ト其罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

本條ハ刑法施行前ニ犯シタル罪ト刑法施行後ニ犯シタル罪トアリテ後者ニ付キ先ツ確定裁判アリタル後前者發覺シタル場合ニ關シ其餘罪ニ付キ裁判ヲ爲スハ準則ヲ定メタルモノナリトス蓋シ此ノ後ニ發覺シタル餘罪ニ對シ刑法第六條ニ依リ輕キ新法ヲ適用スヘキ場合ニハ別段ノ規定ヲ要セスシテ直ニ刑法第五十條及第五十一條ノ併合罪例ヲ適用スルヲ得可シト雖モ此餘罪ニ付キ舊法ヲ輕シト認メ舊刑法ヲ適用ス可キ場合ニハ餘罪ハ舊刑法ノ刑ニ該リ確定

裁判ヲ經タル罪ハ刑法ノ刑ニ該レルヲ以テ此場合ニハ舊刑法數罪俱發例ニ依ル可キカ將タ併合罪例ニ依ル可キカ大ニ疑ナキヲ得サルナリ於是乎本法ハ本條ヲ以テ此ハ如キ場合ニ於テモ尙併合罪例ニ依ル可キコトヲ定メタルモノナリトス。

本條ハ法文ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキ云々ト爲シ恰モ裁判ヲ爲ス順序ヲ定メタルモノ、如シト雖モ決シテ本條ハ然ルニアラスシテ只裁判ヲ爲スニ付キテノ準則ヲ定メタルモノナリトス從テ本條所謂併合罪ニ關スル規定ヲ適用スルニモ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタル後ニ於テ初メテ適用スルニアラスシテ之ヲ適用スル場合ニ於テ共ニ適用スルモノナリトス。

今本條ノ適用ヲ例示センニ刑法施行后私印偽造罪(刑法第六十七條)ニ付キ三年ノ懲役ニ處セラレタル者刑法施行前ニ有價證券偽造罪(刑法第六十二條)舊刑法第二百九條ヲ犯シタルコト發覺シ之ニ對シテ裁判ヲ爲ストキハ舊法ノ輕キコト明ニシテ舊刑法第二百九條ヲ適用スルモ尙ホ刑法第五十條ニ依リ更ニ之ヲ處斷シ第五十一條ニ從ヒ十三年以下ノ懲役刑ヲ執行スルモノナルカ如

第十一條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後確

定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁

判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又

ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト餘罪トニ付

キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

本條ハ前條ト反對ハ場合即チ刑法施行前ハ罪ト施行後ハ罪トアリテ前者ニ付キ先ツ確定裁判アリタル後ニ後者發覺シタル場合ニ關スル規定ナリトス蓋シ其刑法施行後ニ犯シタル餘罪カ若シ施行前ニ犯サレタルモノナルトキハ本條ニ關係ナク第六條ヲ適用ス可キモノナル可ク又其確定裁判ヲ經タル罪ニ新法ヲ適用シタルモノナルトキハ何等ノ疑モナク其餘罪ニ對シテハ併合罪例ヲ適用スルヲ得ヘシト雖モ其確定裁判ヲ經タル罪ニ舊刑法ヲ適用シタルモノナルトキハ其餘罪ニ對シ數罪俱發例ヲ適用スヘキカ將タ併合罪例ヲ適用ス可キ

カノ疑ヲ生ス可シ本條ハ即チ之ニ對スル處分ヲ定メ刑法第五十條及第五十一條ヲ準用スルコト、爲シタルモノナリトス。

今之ヲ例ヘハ刑法施行前ニ犯シタル偽証罪ニ付キ刑法施行後刑法第六條適用ノ結果舊刑法ニ依リ三年ノ重禁錮ニ處セラレタル者尙ホ刑法施行後右確定判決アルマテノ間ニ偽造私書行使罪ヲ犯シタルコト發覺シタルトキハ刑法第五十條ニ依リ更ニ處斷シ同第五十一條ヲ適用シテ兩刑ヲ科シ七年六月以下ノ懲役刑ヲ執行ス可キモノナルカ如シ。

第十二條 第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後

有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定

ヲ準用ス

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

本條ハ刑法施行前刑法ハ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラハタル者ハ刑法施行後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタル場合ニ關スル規定

ナリトス蓋シ本條ト第七條規定ノ場合ト異ナル所ハ單ニ後ニ犯シタル罪カ第七條ノ場合ニハ舊法ノ罪ニシテ本條ノ場合ニハ新法ノ罪ナルノ差異アルノミナリトス。

本條ニ依リ累犯ノ規定ノ準用ヲ受ク可キ者ハ第七條第一項所謂舊法ニ依リ新法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者及ヒ舊法ニ依リ新法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者本法第二條參照ヲ謂フモノトス(以上ノ者ノ意義ニ付キテハ拙著新刑法逐條義解第七十一頁以下參照)今本條ノ適用ヲ例示センニ刑法施行前強盜罪ニ依リ七年ノ輕懲役ニ處セラレタル者刑法施行後右懲役ノ執行ヲ終リタル日ヨリ五年内ニ更ニ強盜罪ヲ犯シタルトキハ刑法第五十六條及第五十七條ニ依リ刑法第二百三十六條ノ長期ノ二倍以下即チ二十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトナルカ如シ(刑法第十二條及第十四條參照)。

本條第二項ハ第七條第二項ハ規定ヲ本條ニ準用シタルモノハニシテ即チ刑法

施行前舊法數罪俱發例ニ依リ處斷セラレタル者其數罪中新法ノ懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非スト雖モ刑法施行後更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用スヘキコトヲ定メタルモノナリトス故ニ例ヘハ刑法施行前贖物販賣罪失火罪及ヒ墮胎罪ヲ犯シ舊刑法第一百條ニ依リ五月ノ重禁錮ニ處セラレタル者刑法施行後右執行ヲ終リタル日ヨリ五年内ニ更ニ強姦罪ヲ犯シタルトキハ前數罪中墮胎罪ナル新法ノ懲役ニ處ス可キ罪ニ等シキモノアルカ故ニ本項ノ適用ヲ受ケ刑法第五十六條第五十七條ニ從ヒ刑法第七十七條ノ長期ノ二倍以下即チ二十年以下ノ懲役ニ處ス可キモノトナルカ如シ。

第四節 舊法ノ刑ト刑法ノ規定トノ調和ニ關

スル規定

本節ハ刑法施行前ナルト施行後ナルトヲ問ハス舊法ニ依リ爲シタル刑ノ言渡ニ付キ刑法施行後未タ其執行ヲ終ラサル場合ニ於テ之ヲシテ刑法ト其軌ヲ同一ニセシム可キコトヲ規定シタルモノニシテ第十三條乃至第十八條ノ規定

スル所ナリトス蓋シ凡ソ刑ヲ定メタル各本條ノ規定ヲ適用スルニハ常ニ其規定ヲ支配スヘキ總則ノ規定ニ依ルヘキコトヲ原則トスト雖モ元來新法ノ總則タルヤ社會ノ進歩變遷ニ鑑ミ適當ト認メ改定セラレタルモノナルカ故ニ刑法施行後ハ凡テノ刑ヲ之ニ依リテ取扱フコト事宜ニ適スルノミナラス若シ然ラサレハ極メテ不便不利アルヲ免レサルヲ以テ從テ本法ハ刑法施行後ハ刑法改正ノ目的ニ從ヒ可成刑法ノ規定ヲ適用セシメ以テ新舊二法ノ經過時代ニ於ケル不都合ヲ調和センコトヲカメタルモノナリトス。

第十三條 刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令

ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行、假出獄及ヒ時効ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ爲ス可シ前項ノ場合ニ於テハ第二條及ヒ明治十四年第八十一號

布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時効期間ノ起算及ヒ時効ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

本條第一項ハ刑法施行前ニ處セラレタルト刑法施行後ニ處セラレタルトヲ問ハス舊法ハ刑ニ處セラレタル者ハ刑法施行後ニ於ケル刑ハ執行、假出獄及ヒ時効ニ關シテハ刑法ノ規定ヲ準用スヘキコトヲ規定シタルモノハナリトス蓋シ刑法施行後ニ於テ新舊二法ノ刑ノ執行ヲ存スルカ爲メ實行上錯雜ヲ生スルノ不便アルカ故ニ之ヲ避クルノ趣旨ニ出テタルモノナリトス。

本項ノ規定アルカ爲メ舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シ刑ノ執行ニ關シテハ監獄法第一條ノ規定ヲ適用スルヲ得ヘク假出獄ニ關シテハ刑法第二十八條乃至第三十條及ヒ監獄法第六十七條ノ規定ヲ準用スルヲ得ヘク又時効ニ關シテハ刑法第三十二條ノ規定ヲ適用スルヲ得ヘキナリ故ニ例ヘハ監獄法第一

條ハ懲役監禁錮監及拘留場ヲ以テ刑法ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スヘキ場所ト定ムト雖モ本條ノ規定ニ依リ舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者モ尙ホ是等ノ監獄ニ拘禁スルコトヲ得ヘキモノナルカ如シ然レトモ罰金又ハ科料ニ處セラレタル者之ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法施行後ハ刑法第十八條ノ規定ニ依リ之ヲ勞役場ニ留置セサルヘカラス而シテ此場合ニハ刑法第八條第三項ノ規定ニ依リ其ノ言渡ト同時ニ之ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡サ、ル可カラス然レトモ刑法施行前既ニ確定裁判アリタル者ニ對シテハ刑ノ言渡ト同時ニ勞役場留置ノ言渡ヲ爲スヲ得サルカ故ニ斯ル場合ニハ特ニ明文ヲ設ケテ此不便ヲ避クルノ必要アリトス爰ヲ以テ本法ハ本條第一項但書ヲ以テ此ハ場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ勞役場留置ハ言渡ヲ爲スヘシト規定シタル所以ナリトス。

本條第二項ハ前項ハ規定ヲ準用スルニハ本法第二條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ハ例ニ依リ主刑ハ對照ヲ爲ス可キコトヲ規定シタルモノナリトス蓋シ舊法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑ノ執行假出獄等ニ付キ刑法ノ規定ヲ

準用スルニハ新舊二法ノ主刑ノ對照ヲ爲スコト必要ナルハ論ヲ俟タス而シテ之ニハ本法第二條ノ規定アルモ該條ハ專ラ刑法第六條ニ依リ輕キモノヲ適用スル爲メニ對照スル場合ヲ豫想シタルモノニシテ既ニ刑ニ處セラレタル場合ニ之ヲ適用スルコト能ハサルヲ以テ獨リ第二條ノ規定ニ依リテハ本條ノ目的ヲ達スルコトヲ得サルカ故ニ舊刑法ノ刑ト舊刑法施行前ノ新律綱領改定律例等ノ刑トヲ對照シタル明治十四年布告第八十一號第一條ノ例ニ依ラシメ舊刑法ノ刑ノ媒介ヲ經テ刑法ノ刑ト舊刑法施行前ノ法令ノ刑トヲ對照スルノ道ヲ設ケタルモノナリトス從テ上ニ述ヘタル如ク本條第一項ニ依リ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者カ監獄法第一條ノ適用ヲ受クル場合ニ於テ如何ナル受刑者ヲ如何ナル監獄ニ拘禁スルヤハ偏ニ本項ノ對照例ニ依リ定マル可キモノナリトス。

本條第三項ハ舊法ニ依リ處セラレタル者ハ刑ハ刑法施行前ニ於ケル時効期間ハ起算及時効ハ中斷ニ付キテハ舊法ノ規定ヲ適用スヘキコトヲ規定シタルモノナリトス蓋シ本條第一項ハ刑法施行後ハ時効ニ付テモ刑法ノ規定ヲ準用

ス可キコトヲ定メタルカ故ニ舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時効期間ノ起算及ヒ時効ノ中斷ニ付テモ其時効ノ完成カ刑法施行後ニ在ルトキニハ常ニ刑法ノ規定ヲ準用ス可キモノナルヤ否ヤノ疑義ヲ生ス可シ然レトモ刑法施行前既ニ確定シタル時効ノ起算點及ヒ既ニ効力ノ生シタル時効中斷ニ付テハ假令其時効ノ完成カ刑法施行後ニ在リトスルモ之ニ影響ヲ及ホサシム可キモノニアラス故ニ本法ハ本項ヲ設ケ此ノ場合ニハ舊法ノ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ可キコトヲ規定シ此疑義ヲ解決シタルモノナリトス但シ舊刑法施行前ノ舊律ニ於テハ刑ノ時効ニ關スル規定ヲ設ケサルヲ以テ本項ノ規定ヲ之ニ適用スルヲ得サルカ故ニ時効ノ起算及ヒ中斷ニ付テモ本條第一項ノ趣旨ニ從ヒ刑法ノ規定ヲ適用ス可キモノナリトス。

第十四條

刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處ス可キ者ト雖モ

刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲

ス可シ

本條ハ刑法施行前ハ罪ニ付キ刑法施行後刑法第六條ニ依リ舊法ヲ輕シトシ舊刑法ノ刑ニ處スヘキ者ハ刑ノ執行猶豫ニ關シテハ新法ハ執行猶豫ハ恩典ヲ之ニ及ホサシムヘキコトヲ規定シタルモノナリトス蓋シ舊刑法ノ刑ノ執行猶豫ニ關シテハ明治三十八年法律第七十號アルカ故ニ刑法施行後ト雖モ舊刑法ヲ適用スル場合ニハ常ニ之ニ依ルヘキモノナルヤノ疑アルヲ以テ本法ハ刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處スヘキ者ト雖モ總テ進步改定シタル刑法ノ規定ニ依ラシムルヲ至當ト爲シ本條ノ規定ヲ設ケタルモノナリトス但シ既ニ刑法施行前ニ於テ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ハ本法第五十八條ニ依リ處分ス可キモノニシテ本條ノ關スル所ニアラサルモノトス。

本條第二項ハ前項ノ規定ヲ準用スルニハ本法第二條ニ依リ新舊法ノ主刑ノ對照ヲ爲スヘキコトヲ規定シタルモノナリトス蓋シ新法ニテハ刑ノ執行猶豫ノ恩典ヲ受クヘキ者ハ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタル者ナラサル可カラス(刑法第二十五條)故ニ前項ノ場合ニ於テ言渡スヘキ舊刑法ノ刑カ果シ

テ新法ニ於テ執行ヲ猶豫スヘキ懲役又ハ禁錮ニ相當スルヤ否ヤヲ本法第二條ノ對照例ニ依リテ定ムルノ必要アレハナリトス而シテ本條カ前條ト異ナリ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者ニ付キ規定セザリシ所以ハ舊刑法施行前ノ法令ノ罪ニシテ其刑ノ執行ヲ猶豫セラル、如キ輕微ナル犯罪者今日マテ確定裁判ヲ受ケスシテ生存スルコト有リ得ヘカラサレハナリトス。

第十五條

刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ

免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出

獄ニ關スル規定ヲ準用ス

刑法施行前罰金又ハ科料ヲ完納セサル爲メ輕禁錮又ハ

拘留ニ換ヘラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法

第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ準用ス但留置ノ日數ハ

其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超ユルコ

トヲ得ス

本條第一項ハ刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者又ハ幽閉ヲ免セラレタル者ニ付キ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用スヘキコトヲ規定シタルモノハニシテ前條ト同一趣旨ハ規定ナリトス蓋シ舊刑法ニ於テハ何等執行方法ニ付テ差異ナキニ拘ラス無定役刑中流刑ニ付テハ幽閉ヲ免スト云ヒ禁獄及ヒ禁錮ニ付テハ假出獄ト云フカ如キハ單ニ名稱ノ差異ニ外ナラスシテ何等ノ實益ナキヲ以テ刑法ハ此區別ヲ廢シ總テ假出獄ト稱シタルヲ以テ刑法施行前假出獄免幽閉ノ特典ヲ受ケタル者ニ對シテハ新法ノ主義ヲ貫徹スル爲メ刑法施行後ハ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用スルヲ適當ト認メタレハナリトス故ニ本項規定ノ適用ニ依リ舊法ノ如キ苛察ノ取締ヲ要セスシテ監獄法第六十七條ニ依リ寬大ナル取締ヲ爲スヲ以テ足ルモノトス之ヲ例ヘハ舊刑法ノ徒刑囚ニシテ假出獄ヲ許サレタル者モ舊刑法ノ如キ島地ニ居住スルコトヲ要セスシテ其故郷ニ歸住スルヲ得ヘキモノナルカ如シトス。

本條第二項ハ前項ト同一趣旨ニ基キ舊刑法ニ依リテ換刑處分ヲ受ケタル者ニ付キ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ規定ヲ準用ス可キコトヲ規定シタルモノハナリ

トス、蓋シ刑法ニ於テハ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルモノニ對シテハ單ニ之ヲ一定ノ期間勞役場ニ留置セシムルノ主義ヲ採リ舊刑法ノ如ク之ニ對シ換刑處分ヲ爲サ、ルヲ以テ本法第十三條ノ趣旨ヲ貫徹セシムル爲メニハ舊刑法ニ依リ換刑處分ヲ受ケタル者モ又之ヲ勞役場ニ留置スルコト必要ナルカ故ニ因テ本法ハ本條ノ規定ヲ設ケ刑法施行前罰金又ハ科料ヲ完納セサル爲メ舊刑法第二十七條又ハ第三十條ニ依リ輕禁錮又ハ拘留ニ換刑セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ規定ニ從ヒ勞役場ニ留置スルコト、爲シタルモノナリトス、而シテ既ニ之ヲ勞役場ニ留置スルモノトセハ其留置ノ期間ニ關シテモ情狀ニ依リ行政處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトニ關シテモ亦刑法ノ規定ニ依ルコト至當ナルカ故ニ尙本條ハ之ニ刑法第三十條ノ規定ヲ準用シ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得セシム可キヲ規定シタルモノナリトス、但シ本項ハ規定ハ附加ハ罰金ヲ完納セサル爲メ輕禁錮ニ換ヘラレタル場合ニハ全ク適用ナシトス、蓋シ此場合ニハ本法第十八條第二項ニ依リ其輕禁錮ノ言渡ハ刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フヲ以テナリトス、

ス、

而シテ尙ホ本條ノ趣旨ヲ貫徹スル爲メニハ本項ノ規定ニ依リ勞役場ニ留置セラレタル者ニ對シテハ舊刑法ニ於ケル換刑處分ノ最長期間タル二年間内之ヲ留置スルノ必要ナキヲ以テ本法ハ本項但書ヲ以テ其留置期間ハ換刑命令ヲ執行シタル日ヨリ起算シ刑法ハ留置ニ關スル制限期間ヲ超ユルコトヲ得サルモハト爲シタリ、故ニ其留置期間ハ罰金ニ付キテハ一年、科料ニ付キテハ三十日、又科料ヲ併科シタル場合ニハ六十日ノ期間ヲ超ユルコトヲ得サルモノトス。

第十六條

懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ

例ニ從フ但司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感

化院ニ入院セシムルコトヲ得

本條ハ懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ尙舊刑法ノ例ニ從フ可キコトヲ規定シタルモノナリトス、蓋シ舊刑法ハ其第七十九條第八十條及第八十二條ニ於テ或ル犯罪者ハ一定ノ期間之ヲ懲役場ニ留置スルコトヲ得ル旨ヲ規定セ

ルモ刑法ニ於テハ全ク之ヲ廢止シ此等ノ者ハ凡テ之ヲ感化院ニ收容スルコト
ト爲シタリ然レトモ仍ホ刑法施行前ニ於テ懲治場留置ノ言渡ヲ爲シ刑法施行
後ニ亘リ未タ其執行ヲ終了セサルモノアルコトアルヘシ而シテ此等ノ者ニ付
テハ當然刑法ノ規定ニ從ヒ刑法ノ施行ト共ニ總テ釋放ス可キコト理ノ當然ナ
リト雖モ元來是等惡少年ヲ選善感化スルハ國家ノ有スル義務ニシテ直ニ之ヲ
釋放シテ其行動ヲ自由ナラシムルトキハ極メテ社會ニ有害ナル可ク且ツ之等
ノ者ノ保護教育ヲ目的トスル感化院法及ヒ之ニ依リテ設立セラレタル感化院
アリト雖モ未タ極メテ不完全不十分ニシテ總テ之ニ移スコト能ハサルヲ以
テ止ムナク本法ハ當分之等ノ者ヲ從前ノ例ニ依リ懲治場ニ留置セシムルコト
ト爲シタルモノナリトス彼ノ監獄法ニ於テ其附則第二項但書ヲ以テ監獄則中
懲治人ニ關スル規定ハ當分ノ内仍ホ其效力ヲ有スルコトヲ規定シタルモ全ク
本條ト同一理由ニ基クモノナリトス。

然レトモ懲治場留置處分タルヤ刑法ニ於テハ之ヲ認メサルモノナルヲ以テ
此ノ如キ制度ヲ永ク存置セシムヘキモノニアラス故ニ事宜ニ從ヒ之ヲ廢止ス
ルコトヲ得ル爲メ本法ハ本條但書ヲ以テ司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ
又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得ト規定シタルナリトス。

第十七條 缺席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時効期間ハ其

言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本條ハ缺席判決ヲ以テ言渡シタル刑ハ時効期間ハ起算點ニ付テハ其言渡ハ
日ヨリ初ム可キコトヲ規定シタルモノナリトス蓋シ刑法施行前ニ於ケル時効
期間ノ起算ニ付テハ缺席判決ヲ以テ言渡シタルト否トヲ問ハス總テ本法第十
三條第三項ノ規定ニ依リ舊刑法ノ規定ニ依リ當然其言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス
ヘキモノナリト雖モ刑法施行後ニ於ケル時効期間ノ起算ニ付テハ同條第一項
ノ規定ニ依リ總テ刑法ノ規定ヲ準用スヘキモノナルモ刑法ハ缺席判決ニ付テ
ハ何等規定スル所ナク全ク之ヲ認メサルモノ、如シ然レトモ刑事訴訟法中ノ
缺席判決ニ關スル規定ヲ削除セサル以上ハ何等カ之ニ關シ遵據スル所ナカル
可カラズ爰ヲ以テ本法ハ刑法ノ遺脱ヲ補ヒ舊刑法第六十一條末段規定スル所
ノ趣旨ニ基キ本條ニ於テ缺席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時効期間ハ其言渡ノ

日ヨリ之ヲ起算ス可キコトヲ規定シタルモノナリトス。

第十八條

剝奪公權、停止公權、監視及附加ノ罰金ノ言渡ハ

刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フ但既ニ徵收シタル附加

ノ罰金ハ之ヲ還付セス

附加ノ罰金ヲ完納セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ

亦前項ニ同シ

本條ハ刑法施行前ニ言渡シタル附加刑ハ或ルモノハ刑法施行後全ク其效力ヲ失フ可キコトヲ規定シタルモノニシテ第五條及第十九條第二項ト同一趣旨ハ規定ナリトス、即チ本條ハ本節ノ規定中頗ル重大ノ結果ヲ喚起ス可キモノニシテ刑法カ刑制改革トシテ斷然廢止シタル剝奪公權、停止公權、監視及附加罰金ノ四附加刑ニ關シテハ假令從來ノ判決ニ明示サレ又ハ處分ノ結果トシテ附隨執行スヘキモノト雖モ刑法施行ト共ニ斷然其效力ヲ奪去シ新法ノ恩威ヲ既往ニ遡及セシメタルモノナリトス、從テ刑法施行前此等ノ附加刑ニ處セラレタル

者ト雖モ刑法施行ノ當日ヨリ全ク之ニ處セラレタルコトナキ者ト同一ノ状態トナリ公權ヲ回復シ監視ヲ免ル、ノミナラス罰金ニ付テハ之ヲ納ムルコトヲ要セサルニ至ルモノニシテ實ニ受刑者萬歳ノ法條ナリトス、然レトモ刑法施行前既ニ徵收シタル罰金ハ最早執行済ノモノナルヲ以テ之ヲ還附スルノ必要ナキカ故ニ本條第一項但書ハ附加ハ罰金ハ之ヲ還付セスト規定シタリ。

刑法施行前既ニ言渡シタル附加罰金ノ言渡カ其效力ヲ失フ以上ハ之ニ換ヘタル禁錮ニ付テモ同一ノ取扱ニ出ツヘキコト當然ナルヲ以テ本條第二項ハ附加ノ罰金ヲ完納セサル爲メ換刑セラレタル禁錮モ亦刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フ可キコトヲ規定シタリ。

第五節

刑ヲ定メタル他ノ法律ノ處置ニ關スル規定

本節ハ舊刑法以外ニ屬スル刑罰法ト刑法トノ調和ニ關シ規定シタルモノニシテ第十九條乃至第二十七條ノ規定是レナリトス、蓋シ凡ソ刑法施行前ニ公布シタル刑罰法規ハ總テ舊刑法ノ總則ノ適用ヲ受クルモノナルヲ以テ其ノ罪別

刑名等各種ノ事項ニ付キ悉ク舊刑法ノ規定ニ依ルヘキモノナリトス然ルニ舊刑法ハ刑法施行ト同時ニ全ク廢止セラレタルカ故ニ刑法施行後ハ此等ノ刑罪法規ハ總テ刑法總則ノ適用ヲ受クルヲ原則トセサル可カラス然レトモ其刑名刑期ノ範圍及法則適用ノ範圍等ハ全ク刑法ノ規定ト一致セサルモノアルカ故ニ是等ノ刑罰法規ハ刑法ノ規定ニ符合セシムルカ爲メ他日其規定ヲ改正シ刑罰法規全體ニ亘ル統一ヲ圖ラサル可カラス然レトモ此等ノ改正ノ完成スルコトハ幾年ノ後ナルヤ知ル可カラサルヲ以テ假ニ此兩者ノ間ニ調和ヲ謀リ應急ノ措置ヲ爲スコト最モ必要ナリ是レ本節ノ規定ヲ設ケタル所以ナリトス從テ各種刑罰法規ノ改正行ハルニ從ヒ本節ノ規定ハ漸次其適用ヲ失フニ至ルヘキモノナリトス。

第十九條

他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ

刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰

金ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

本條第一項ハ有テユル他ノ法律ニ定メタル主刑ニ付テハ法律改正ヲ規定セハルモノニシテ刑法施行前發布セル刑法以外ノ諸罰則中舊法ノ刑名ヲ掲ケタルモノハ本法第二條ニ規定セル主刑對照表ニ依リ刑法ノ刑名ニ改正セラレタルモノナリトス蓋シ刑法施行前ニ公布シタル刑罰法規ニシテ刑法施行后ニ生存スルモノハ總テ舊刑法ノ刑名ニ依リテ刑ヲ定メタルモノナルヲ以テ之ニ刑法ノ總則ヲ適用スルニハ先ツ其刑名ヲ刑法ノ刑名ニ變更スルコト必要ナレハナリトス然レトモ本條ハ適用ヲ受ク可キ刑法以外ハ刑罰法規ハ刑法ノ規定ニ依リ廢止セラレサルモノハニ限ルモノトス蓋シ刑法ニ依リ其規定カ廢止セラレタル刑罰法規ハ刑法第六條ノ適用ヲ受クルニ止リ本條ノ適用ヲ受クヘキモノニ非サレハナリトス而シテ本條ハ其但書ニ於テ單ニ禁錮トアル場合ヲ有期ハ懲役又ハ禁錮ト變更シタルハ禁錮ニハ重禁錮輕禁錮ノ二別アリテ前者ハ刑法ノ有期懲役ニ相當シ後者ハ刑法ノ有期禁錮ニ相當スルヲ以テナリトス(第二條)而

シテ此但書ノ適用ヲ受クヘキモノハ明治二十三年法律第八十四號命令ノ條項違反ニ關スル罰則ノ件河川法第五十八條鑛業法第一百五條及砂防法第四十一條ノ規定等是レナリトス。

本條第二項ハ舊刑法及刑法以外ハ法規中ノ附加刑ニシテ刑法ニ認メサルモハハ之ヲ廢止スヘキコトヲ規定シタルモノナリトス蓋シ既ニ第十八條ニ於テ述ヘタル如ク第五條ノ規定ト相俟テ刑法ノ主義ヲ貫徹スル爲メ必要ナルコトナルヲ以テナリトス而シテ本項ハ剝奪公權………ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノ云々ト規定スト雖モ元來刑罰法規中直接明文ヲ以テ剝奪公權及其他ノ附加刑ニ處ストノ規定ヲ爲シタルモノ之レナキナリ故ニ此規定ハ刑法及舊刑法以外ノ刑罰法規中舊刑法所謂重罪ノ刑ニ處ストノ規定ヲ設ケルモノニ於テ舊刑法第三十一條及第三十三條適用ノ結果當然剝奪公權及其他ノ附加刑ニ處スルコトナルヲ以テ此趣旨ヲ廢止スルノ意ニ出テタルモノナリトス。

第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セス但他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサ

ル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

本條ハ刑法以外ハ刑罰法規ニ付キ其定ムル所ハ刑期及金額ヲ變更セサル旨ヲ規定シタルモノナリトス蓋シ舊刑法ノ刑ト刑法ノ刑トハ其期間及金額ヲ同フセス舊刑法ハ有期ノ自由刑ノ刑期ヲ十一日以上ト爲シタルヲ以テ他ノ法律ハ總テ其ノ範圍内ニ於テ適當ニ刑期ヲ定メタリ然ルニ刑法ハ有期ノ自由刑ノ刑期ヲ一月以上トシ其範圍内ニ於テ各罪ニ付キ刑ヲ定メタリ從テ其結果刑法ニ於テハ三十日以下ハ常ニ拘留ナルニ反シ舊刑法從テ他ノ法律中ニ於テハ三十日以下ノ刑ニシテ重禁錮アリ輕禁錮アリ又拘留アルモノトス且又罰金ニ於テモ同一事由ニ因リ刑法ニテハ貳拾圓以下ノ罰金ナキニ拘ラス他ノ法律中ニハ貳拾圓以下ノ罰金モ亦是レアルモノトス然ルニ前條第一項ノ規定ニ依リ他ノ法律ニ定メタル主刑ハ凡テ刑法ノ刑名ニ變更セラルヲ以テ刑法施行後ハ刑法ノ總則ノ適用ヲ受クル法律中同一ノ刑名ヲ有スルニ拘ラス其期間又ハ金額ヲ異ニスルモノ又ハ別異ノ刑名ヲ有スルニ拘ラス其期間又ハ金額ヲ同ウス

ルモノアルノ不都合ヲ生ス可シ故ニ此二者ノ調和ヲ公平ナラシメムト欲セハ其期間金額ヲモ尙ホ變更シテ刑法ト同一ナラシムルコト至當ナルカ如シト雖モ此ノ如クスレハ却テ錯雜ヲ生シ當初ノ立法ノ本旨ヲ沒却スルノ虞アルカ故ニ本法ハ刑名ノミハ之ヲ變更スルモ刑期金額ハ之ヲ變更セサルヲ至當ト認メ本條ノ規定ヲ設ケタルモノナリトス故ニ例ヘハ他ノ法律ニ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ストノ明文アル場合ニハ其重禁錮ハ前條ノ規定ニ依リ有期懲役ニ變更セラル、モ其刑期ハ本條ノ規定ニ依リ十五日以上六月以下ト爲リ從テ其結果刑法施行後刑法以外ノ刑罰法規中ニハ刑法ニ認メサル十五日以上六月以下ノ懲役ト云フカ如キ刑ヲ生スルコト、ナルモノトス(刑法第十二條參照)。

他ノ法律中ニハ各罪ノ刑ニ付特ニ期間又ハ金額ヲ定メス舊刑法ノ規定ノ範圍内ニ於テ量定セシムルモノアリ例ヘハ重懲役ニ處ス又ハ拘留科料ニ處スト云フカ如シ(治安警察法中ノ罰則郵便法第四十三條及電信法第三十條等ノ如シ)此ノ如キ場合ニ於テ其刑期及金額ヲ刑法ト同一ナラシムルハ却テ特別法ニ於ケル罪及刑ノ權衡ヲ失ハシムルノ虞アルヲ以テ本法ハ本條但書ヲ以テ此等ハ

場合ニ於テモ尙舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フコト、爲シ以テ特別法ハ刑ハ範圍ヲ維持スルコト、爲シタリ。

第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可

キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加

減例ニ關スル規定ニ依ル

本條ハ刑法以外ハ刑罰法條ニ定メタル刑ヲ加重減輕ス可キ場合ニハ第二十三條ハ場合ハ外舊刑法ハ加減例ニ依ルヘキコトヲ規定シタルモノナリトス蓋シ刑法以外ノ刑罰法條ハ舊刑法ノ總則ニ從テ規定セラレタルモノナレハ加重又ハ減輕ニ關シテモ又舊刑法ノ加減例ヲ標準トシテ期間又ハ金額ヲ定メタリ然ルニ舊刑法廢止セラレ此等ノ法律ハ刑法ノ總則ノ適用ヲ受クルニ至リタルニ拘ハラス其刑名ヲ變更スルニ止マリ其期間又ハ金額ハ前條ニ依リ之ヲ變更セサルヲ以テ之ヲ加減スルニ至ク主義ヲ異ニセル刑法ノ加減例ヲ適用スルニ於テハ法ノ精神ニ反スルノミナラス刑法ニ於テハ舊刑法ニ於ケル如ク四分ノ

一ヲ一等トシテ加減スルニ非スシテ二分ノ一ヲ加減スルヲ以テ之ニ依ルコト
 、セハ極メテ刑ノ權衡ヲ失フニ至ルヘシ故ニ本法ハ本條ノ規定ヲ設テ刑法以
 外ノ刑罰法條ニ定メタル刑ヲ加減スヘキ場合ニハ舊刑法ノ加減例ニ依ル可キ
 コトヲ定メタルモノナリトス、而シテ本條ノ適用ヲ受ク可キモノハ例ヘハ郵便
 法第四十四條、船員法第七十二條、市町村會議員選舉罰則第十二條及ヒ爆發物取
 締規則第九條等ノ如キ是レナリトス。

第二十二條 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケ又ハ舊刑法

ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合
 ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ
 規定ニ變更ス

爆發物取締罰則第十條ハ之ヲ廢止ス

本條第一項ハ刑法以外ハ法規ニシテ舊刑法ハ規定ヲ援用シタルモノハ付テ
 ハ其舊刑法ハ規定ヲ之ニ相當スル刑法ハ規定ニ變更ス可キコトヲ規定シタル

モハナリトス、蓋シ舊刑法ノ規定タルヤ全ク時勢ニ適合セサルモノトシテ廢止
 セラレ更ニ刑法ニ於テ社會人事ニ適合シタル必要ノ規定ノ設ケラレタルニ拘
 ラス若シ他ノ法律中ノ舊刑法ノ規定ニ相當スル規定カ刑法中ニ存在スルニ際
 シ其舊刑法ノ規定ヲ之ニ相當スル刑法ノ規定ニ變更セサルニ於テハ舊刑法ハ
 其廢止後ニ於テモ此ノ如キ法律ノ爲メニ尙ホ有效ニ生存スルモノト認メラレ
 刑法改正ノ趣旨ニ反スレハナリトス、本條規定中ニハ三個ノ場合ヲ包含ス即チ
第一舊法ハ規定ヲ掲ケタル場合、

此場合ニ在リテハ同一規定ヲ刑法中ニ求メ其ニ相當スル刑法ノ規定ニ變更
 セハ足ルモノトス、此場合ノ法律ヲ例示センニ戒嚴令第十一條、民法第八百十三
 條第三號、第四號、商法第五百八十一條、遺失物法第十六條第二項、辯護士法第五條
 第二號及刑事訴訟法第二十四條等ノ如シ、因テ例ヘハ民法第八百十三條第三號
 規定ノ姦淫罪ニ付テハ舊刑法第三百四十八條乃至第三百五十一條ノ規定ヲ本
 條ニ依リ刑法第七十七條乃至第八十二條ノ規定ニ變更スヘキモノナルカ
 如シ。

第二舊刑法ノ規定ニ依ルコトヲ定メタル場合

此場合ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ準シテ處斷ス、刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス又ハ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル等ト云フカ如ク舊刑法ニ依ルコトヲ定メタル場合ニシテ之ヲ刑法ノ相當規定タル未遂罪例又ハ加減例ニ變更セハ足ルモノトス、郵便法第五十五條爆發物取締罰則第十二條及煙草專賣法第六十二條等ノ如キ即チ是レナリトス。

第三舊刑法ノ規定ニ依ラサルコトヲ定メタル場合

此場合ハ舊刑法ノ輕減加重數罪俱發數人共犯等ノ例ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニシテ此場合ニモ只之ヲ刑法ノ相當規定タル加減例又ハ併合罪例等ニ變更セハ足ルモノトス、即チ煙草專賣法第六十四條船舶法第二十九條印紙稅法第十四條酒造稅法第三十一條等ノ如キ是レナリトス。
本條第二項ハ爆發物取締罰則第十條ノ規定ヲ廢止ス可キコトヲ規定シタルモノナリトス、蓋シ刑法ハ舊刑法第八十條及第八十一條ニ相當スル場合ヲ認メス而シテ該罰則ノ規定ハ舊刑法ノ規定ニ依ラサルコトヲ定メタルモノナレト

モ刑法中之ニ相當スル規定ナキヲ以テ之ヲ存置スルニ於テハ前項ニ於テ述ヘタルト同一ノ不都合ヲ來ス可キカ故ニ本法ハ全然之ヲ廢止シ總テノ場合ニ於テ刑法第四十二條ノ例ニ依ラシムルコトヲ爲シタルモノナリトス、今參着ノ爲メ該罰則ノ規定ヲ掲ケンニ次ノ如シ。

爆發物取締罰則第十條 本則ニ記載シタル者ニハ刑法舊刑法ノ意第八十條第八十一條ノ例ヲ用弗ス但十六才未滿ニシテ是非ハ辨別ナキ者ハ刑法舊刑法ニ從フ。

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場

合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

本條ハ前條第一項ノ規定ニ依リ舊刑法ノ規定ニ相當スル刑法ノ規定ニ變更セラレタル刑罰法ヲ適用スル場合ハ加重又ハ減輕ニ關シ特別法ノ規定ヲ適用

セハル旨ヲ規定シタルモノハナリトス蓋シ前條ノ如ク刑法ノ刑ヲ適用スルトキハ勢ヒ刑法ノ加減例ニ依ル可キコト當然ナルカ如シト雖モ刑法ハ再犯加重及併合罪ノ加重ハ之ヲ認ムルモ舊刑法ノ如ク各本條ニ於ケル特別ノ加重ハ之ヲ認メサルニ拘ラス舊刑法ノ主義ニ基キ制定セラレタル此等ノ法律中ニハ船員法第六十九條郵便法第五十一條ノ如ク其之ヲ認メタルモノアルカ故ニ刑ノ加重ニ關シ此ノ如キ規定ヲ適用スルコトハ刑法ノ趣旨ニ反スルノミナラス刑法ハ一般ニ科刑ノ範圍ヲ廣大ナラシメ犯狀如何ニ依リ實際ノ刑ヲ重ク言渡スモ又輕ク言渡スモ實ニ執法官ノ裁量ニ一任シタルヲ以テ各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フト云フカ如キ特別加重ノ規定ハ毫モ必要ナキモノトス是レ本條前段ニ於テ此ノ如キ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セサルヲ適當ト認メタル所以ナリトス。

而シテ又刑ノ減輕ニ付キテモ本來刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ルヘキコト當然ナリト雖モ第三十一條ノ規定アルカ爲メ舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル可キコトナルヲ以テ本條ハ之ヲ除外スル爲メ其後段ノ規定ヲ以テ刑ノ減輕ハ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ可キコトヲ規定シタルモノトス。

第二十四條 明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十

三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

本條ハ舊刑法ハ補充法タル議會并ニ議員保護ニ關スル法律第二十八號及ヒ特別法タル輕微ナル屋外竊盜ハ罪ニ關ルル法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス可キコトヲ規定シタルモノナリトス蓋シ特ニ之ヲ茲ニ廢止シタル所以ノモノハ法律第二十八號ニ付テハ刑法ハ其第五章及第二十四章ニ於テ公務所及公務員ニ關スル一般的處分規定ヲ設ケタルヲ以テ特ニ之ヲ存置スルノ必要ナキニ至リ又法律第九十九號ニ付キテハ屋外竊盜罪ハ刑法第二百三十五條ノ規定中ニ收容セラレ如何ナル微罪ト雖モ該條ニ依リ處罰シ得ヘキコト、ナリタルヲ以テ此又特ニ存置スルノ必要ナキニ至リタルヲ以テナリトス。

第二十五條 左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ內刑

法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

一 第二編第三章第五節

二 第九十八條乃至第二百條明治四十二年四月法律第

三十九號ヲ以テ削除セララル

三 第二編第四章第七節及ヒ第九節

四 第二編第五章第三節

五 第三編第二章第四節

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス

本條第一項ハ舊刑法中ハ規定ニシテ刑法中ニ之ニ相當スル規定ナキモノハ當分ハ内刑法施行前ト同一ハ效力ヲ有ス可キコトヲ規定シタルモノナリトス蓋シ本條ニ列舉セルカ如キ法文ニ規定シタル犯罪ニ付テハ刑法ハ之ヲ特別法

ニ讓ルヲ適當ト認メ之ヲ刑法中ヨリ省キタリ然レトモ此等ノ特別法ヲ完成スルニハ相當ノ年月ヲ要ス可キカ故ニ本法ハ便宜方法トシテ當分ノ内此等ノ舊刑法ノ規定ハ刑法施行前ト同一ハ效力ヲ有スルコト、爲シタルモノナリトス從テ本條ハ一方ニ於テ恰モ一旦廢止シタル舊刑法ヲ本法ヲ以テ復活シタルカ如キ感アルモノナリト雖モ然レトモ又他方ニ於テ本條ハ其第一號乃至第五號ノ實質的規定ヲ特別法ニ代用シ完全ナル特別法ノ爲ルマテ假ニ實施セララル、モノトモ謂フコトヲ得ヘシ

本條第二項ハ前項ハ場合ニ刑法第八條ハ規定ヲ準用シテ刑法ハ總則ニ依ラシムヘキコトヲ規定シタルモノハトス蓋シ之ヲ舊刑法ノ規定ノ儘ニ生存セシメ且ツ之ヲ適用スルニ全然舊刑法ノ總則ニ依ルコトハ刑法改正ノ趣旨ニ反シ他ノ法律トモ權衡ヲ失スルヲ以テナリトス從テ本法第十九條第二十條ノ如キ規定ハ當然之ニ準用セララル、ヲ以テ其定ムル所ノ刑ハ總テ刑法ノ刑名ニ變更セララル、モノトス。

第二十六條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從フ

- 一 軍機保護法ニ掲ケタル罪
- 二 徴兵令ニ掲ケタル罪
- 三 明治三十八年法律第六十六號ニ掲ケタル罪
- 四 通貨及證券模造取締法ニ掲ケタル罪
- 五 船舶法ニ掲ケタル罪
- 六 船員法ニ掲ケタル罪
- 七 船舶職員法ニ掲ケタル罪
- 八 船舶検査法ニ掲ケタル罪
- 九 戶籍法ニ掲ケタル罪
- 十 郵便法ニ掲ケタル罪
- 十一 舊刑法中印紙ノ偽造變造及ヒ其知情使用ニ關スル罪(明治四十二年四月法律第三十九號ヲ以テ削除セラル)

本條ハ特別法ハ場所ニ關スル効力ヲ規定シタルモノナリトス蓋シ舊法ハ場所ニ關スル法律ノ効力ニ付キ何等ノ規定ヲ設ケザリシモ刑法ハ其第二條ニ於テ或ル罪ニ付キテハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ犯シタル場合ニ刑法ノ規定ヲ適用ス可キコトヲ規定セリ而シテ本條ニ列舉セル各種法律ノ罪ハ其性質刑法第二條ニ掲ケタル罪ト同一ナルニ拘ラス同條ニ列舉セラレサルカ爲メ一般ノ原則ヲ定メタル第一條ニ依リ帝國內ニ於テ犯シタル者ニ非サレハ之ヲ罰スルコト能ハサルノ不都合ヲ生ス可シ(刑法第八條參照)此不都合ヲ避ケンカ爲メニ本法ハ本條ヲ設ケタルモノナリトス。

第二十七條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

- 一 著作權法ニ掲ケタル罪
- 二 重要物産同業組合法ニ掲ケタル罪
- 三 移民保護法ニ掲ケタル罪

本條ハ前條ト同様特別法ハ場所ニ關スル効力ヲ規定シタルモノニシテ只其

ノ罪ノ性質カ刑法第三條ニ列擧シタルモノト同一ナルヲ以テ同條ノ例ニ從フ可キモノト爲シタルニ過キサルナリトス(本條並ニ前條ニ付キテハ拙著新刑法逐條義解第一編第一章ヲ參照セラレタシ)

第六節 刑罰法條以外他ノ法令ノ人ノ資格其他ノ事項ニ關スル規定ト刑法トノ調和ニ關スル規定

本節規定スル所ノ各法條ハ刑罰法以外ノ他ノ法律ト刑法トノ關係ヲ定メタルモノニシテ第二十八條乃至第三十七條ノ規定スル所ナリトス蓋シ刑罰法規以外人ノ資格又ハ手續等ニ關スル法律中ニ舊刑法ノ刑名又ハ重罪輕罪違警罪ノ區別ヲ其標準ト爲シタルモノアリ而シテ此等ノ法律ノ目的ハ或ル種ノ犯罪行爲アル者又ハ或ル程度以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シテハ特種ノ取扱ヲ爲シ又ハ一定ノ權利若クハ資格ヲ剝奪スルニ在リトス而シテ刑法施行後ハ此等ノ法律ハ新法ノ罪又ハ刑ニ付テモ相當ノ範圍内ニ於テ舊法ノ罪又ハ刑ニ於ケルト同様ニ之ヲ適用セサル可カラズ然レドモ刑法ニ於テハ重罪輕罪違警罪

ノ區別ナキノミナラス其刑名モ著シク舊刑法ト異ナルモノアルヲ以テ之カ適用ニ關シテハ特別ノ規定ヲ設ケ刑法ノ規定トノ調和ヲ圖ラサル可カラズ是レ本法カ本節ノ規定ヲ設ケタル所以ナリトス

第二十八條 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又

ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變

更セララル、コトナシ

本條ハ人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ法律即チ刑罰法規以外ノ他ノ法律ハ規定ハ刑法施行ノ爲メ毫モ變更セララル、コトナキ旨ヲ規定シタルモノニシテ本節ニ屬スル各規定ノ樞軸ヲ爲スモノナリトス蓋シ本條規定ノ趣旨タルヤ人ノ資格其他ノ事項ニ關シテ彼ノ刑罰法規ニ付キ第十九條規定スルカ如ク其定ムル所ノ刑名ヲ刑法ノ刑名ニ變更スルノ必要ナク只之ニ對シテハ別ニ一種ノ輕過規定ヲ設ケテ刑法トノ調和ヲ圖ルヲ以テ足ルトノ趣意ニ出テタルニ外ナラサルモノトス

本條所謂人ハ資格トハ恩給ヲ受クル資格官吏恩給法第十二條及ヒ選舉權被選舉權ヲ有スル資格衆議院議員選舉法第十一條等ノ如キヲ謂ヒ其他ノ事項トハ次條以下各規定ノ適用セラル可キ法律ノ明文ニ依リ明ラカナル如ク主トシテ手續ニ關スルモノヲ指稱スル意ナリトス故ニ例ヘハ違警罪即決例ニ於テ舊刑法ノ罪名即チ違警罪ノ文字アルカ如キ又刑事訴訟法ニ重罪輕罪違警罪ノ文字到所ニ尙存スルカ如キ此等ハ凡テ本條ニ依リ何等ノ變更ヲ受クルコトナクシテ次條以下ノ標準規定ニ依リ刑法トノ調和ヲ圖ル可キモノナリトス。

第二十九條 死刑無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト

看做ス

本條ハ刑法ハ罪ト舊刑法ハ罪トハ對照ヲ規定シタルモノハニシテ即チ刑法ノ死刑無期又ハ一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律即チ人ノ資格其他ノ事項ニ關スル刑法以外ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ニ該當ス可キ

モノナリトノ意ナリトス今之カ適用ヲ受クヘキ二三他ノ法律ヲ示サンニ辯護士法第五條第一號裁判所構成法第六十六條第一號市町村制第九條徵兵令第二十一條刑事訴訟法第五十八條第六十二條第一號等ノ如キ即チ是レナリトス故ニ例ヘハ刑法第七十三條第七十七條第八十六條第一百一條第一百六十四條等ノ罪ヲ犯シタル者ハ辯護士タルコトヲ得ス又其公民タル權ヲ失フ可キモノナルカ如シ。

第三十條 前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ

該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト看做ス
 前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト看做ス

前條ニ該當セサル禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付

テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス

本條モ前條ト同様刑法ハ罪ト舊刑法ハ罪トハ對照ヲ規定シタルモノハニシテ其第一項ハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス可キ場合ヲ定メタルモノニシテ即チ前條ニ該當セサル刑法ノ罪タル短期一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ刑罰法以外ノ他ノ法律ノ適用ニ付キテハ舊刑法ノ輕罪ニ相當ス可キ旨ノ規定ナリトス而シテ第一項ノ適用ヲ受クヘキ他ノ法律ハ前條記載ノモノト同一ナリ故ニ例ヘハ刑法第九十五條第九十六條第二百十條等ノ罪ヲ犯シタルトキハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ公民權ヲ失フモノナルカ如シ(市制町制第九條第二項)本條第二項ハ刑法ノ短期一年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ刑罰法以外ノ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト看做スヘキ旨ヲ規定シタルモノニシテ其ノ適用ヲ受ク可キ所謂他ノ法律ノ規定ハ刑事訴訟法第七十五條及衆議院議員選舉法第十一條第四號等ノ如シトス故ニ例ヘハ刑法第七十六條第三百三十一條第二百二十條等ノ罪ヲ犯シタル者ニ對シテハ訊問ノ後拘留狀ヲ

發スルコトヲ得ルモノナルカ如シ(刑訴第七十五條)。

本條第三項ハ刑法ノ短期一年以下ノ懲役ニ該ル罪ハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト看做ス可キ旨ヲ規定シタルモノニシテ其適用ヲ受ク可キ刑罰法以外ノ法律ハ辯護士法第五條第二號ノ如キ是レナリトス故ニ刑法第七十四條第二百三十七條等ノ罪ヲ犯シタル者ハ辯護士トナルコトヲ得サルモノナリトス。

本條第三項ハ刑法ノ短期一年以下ノ禁錮ニ該ル罪ハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス可キ旨ヲ規定シタルモノニシテ其適用ヲ受ク可キ法律極メテ多シトス。

第三十一條 拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ

付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス

本條ハ刑法ハ拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ刑罰法以外ハ他ノ法律ハ適用ニ付テハ舊刑法ハ違警罪ト看做スヘキ旨ヲ規定シタルモノニシテ其趣旨前條ニ同シ而シテ本條ノ適用ヲ受クヘキ他ノ法律ノ規定ハ明治十八年第三十一號布告違警罪即決例第一條刑事訴訟法第二百十四條第一項等ノ如キモノトス從テ其結

果警察署長及分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地ニ於テ舊來ノ拘留十日以下科料(壹圓九拾五錢以下)ノ範圍ヲ超エ刑法ノ拘留(三十日以下)科料(貳拾圓以下)ニ該ル罪ニ對シ極メテ大ナル即決權能ヲ有スルコト、ナルモノナリトス。

第三十二條 他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑、無期又ハ

短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノ、未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ刑法施行前ニ公布シタル舊刑法以外ハ刑罰法規ニ於テ定メタル重罪ハ未遂犯ヲ刑法施行後ニ於テモ處罰スル旨ヲ規定シタルモノナリトス。蓋シ舊刑法ハ其第一百三條第一項ニ於テ重罪ノ未遂罪ハ之ヲ罰スル旨ヲ規定セリ故ニ其總則ノ適用ヲ受クル舊刑法以外ノ刑罰法規ニ於テハ重罪ノ刑ヲ定メタル場合ニハ其ノ未遂罪ヲ罰スルコトヲ特ニ規定セスシテ舊刑法第五條ニ依リ同第一百三條第一項ニ依ラシムルコト、爲シタリ。然ルニ刑法ハ其第四十四條ニ於テ未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ムト規定シ而カモ此規定ハ同

第八條ニ依リ刑法以外ノ刑罰法規ニモ亦適用セラレ、カ故ニ特別ノ規定ナキ限リハ刑法施行後ハ特別法ニ定ムル重罪ニ付キ未遂罪ハ之ヲ處罰スル能ハサルニ至ルヘシ。然レトモ此ノ如キハ其特別法ノ精神ニ反スルノミナラス又刑法ノ趣旨ニモ一致セサルモノナリ。是ヲ以テ本法ハ刑法施行後ニ生存スル此等ノ刑罰法規ノ罪ニシテ刑法ノ死刑無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノハ即舊刑法ノ六年以上八年以下ノ輕禁獄輕懲役以上ニ該ルモノニシテ重罪ナルカ故ニ本條ノ規定ヲ設ケテ此等ノ刑ニ該ルモノ、未遂罪ヲ罰スルコト、爲シタルモノナリトス。

本條ハ刑罰法ノ適用ニ關スルモノニシテ前節ノ規定ト同一目的ヲ有シ本節ノ規定ト實質上何等ノ連絡ナク全ク獨立ノ態度ニテ此位置ニ規定セラレタルモノナルモ恐ラク次條ノ舊刑法ノ重罪ノ刑ト看做スヘキ標準刑ト同一ナルカ爲メ單ニ形式上ノ體裁ヨリ茲ニ相隣接シテ規定セラレタルモノナル可シ。

第三十三條 死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重

罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

本條ハ刑法ハ刑ニ處セラレタル者ト舊刑法ハ刑ニ處セラレタル者トハ對照ヲ定メタルモノハニシテ即チ刑法ノ死刑無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ハ刑罰法規以外ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ストノ意ナリトス、斯ク第二十九條乃至第三十一條ニ於テハ該ル罪ノ新舊對照ヲ定メ本條以下ニ於テハ處セラレタル刑ノ對照ヲ定メタル所以ノモノハ人ノ資格其他ノ事項ニ關シテハ該ルヤ否ヤニ依テ逮捕又ハ審判ノ手續ヲ異ニスルノ規定アリ又處セラレタルヤ否ヤハ其刑ノ輕重ニ依リ資格剝奪ノ有無ニ影響スル所アルヲ以テナリトス。

本條ノ適用ヲ受クヘキ他ノ法律ノ規定ハ人ノ資格其他ノ事項ニ關シ重罪ヲ犯シタルコトヲ標準トセスシテ重罪ノ刑ニ處セラレタルコトヲ標準ト爲シタルモノニシテ官吏恩給法第十二條一項官吏遺族扶助法第十六條第一項醫師法第二條第一號徵兵令第八條等ノ如キ是レナリトス、故ニ本條規定ノ如キ刑ニ處セラレタル者ハ恩給ヲ剝奪セラレ兵役ニ服スルコトヲ得ス又醫師ノ免許ヲ受

クルコトヲ得サルモノトス。

第三十四條

前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ刑

ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝

奪セラレタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セス

本條ハ前條ニ依リ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做サル、者及舊刑法ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ハ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス旨ヲ規定シタルモノハニシテ前條ト同シク刑ノ新舊對照ニ關スル規定ナリトス、蓋シ刑法カ剝奪公權ヲ認メサルハ其必要ナシト認メタルニアラスシテ唯刑法ニ之ヲ規定スルノ至當ナラサル旨ヲ認メタルノミナルカ故ニ公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ公權ヲ剝奪セラレタルトキハ云々トアルカ如キ刑罰法以外ノ剝奪公權者ニ關スル規定ハ刑法施行後ニ於テモ尙必要ナルヲ以テ之ヲ活用セシムル爲メ本條ノ規定ノ設ケラレタルモノナリトス。

本條ノ適用ヲ受ク可キ法律ノ規定ハ民法第九百八條第三號民事訴訟法第三百十條第三號刑事訴訟法第二百二十四條第四號所得稅法第十四條第四號及ヒ衆議院議員選舉法第十一條第三號等ノ如シ故ニ刑法施行後刑法ニ依リ死刑無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ刑法施行前後ニ於テ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ本條ニ依リ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做サレ後見人又ハ證人ト爲ルコトヲ得サルノミナラス衆議院議員選舉權及被選舉權モ亦之ヲ有セサルモノトス。

本條第二項ハ舊刑法ノ附加刑タル剝奪公權ニ因リ一旦喪失シタル公權ヲ復セラレタル者ハ前項ニ該當スルモノ之ニ前項ヲ適用シ公權ヲ剝奪セラレタル者ト看做サル旨ヲ規定シタルモノニシテ前項ニ對スル當然ノ制限ニ外ナラサルモノトス。

第三十五條 六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス
 六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

本條ハ刑法ニ依リ六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ト舊刑法ハ刑ニ處セラレタル者トハ對照ヲ定メタルモノニシテ第三十三條ト其趣旨ヲ同フス而シテ其第一項ハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス場合ノ規定ニシテ其適用ヲ受ク可キ法律ノ規定ハ裁判所構成法第六十六條第二號民法八百十三條第四號等ノ如シトス而シテ本條第二項ハ舊刑法ノ重禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス場合ノ規定ニシテ其適用ヲ受ク可キ法規ハ民法第十七條第五號監獄法第三條等ナリトス本條第三項ハ舊刑法ノ輕禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス場合ノ規定ニシテ其適用ヲ受ク可キ法規ハ衆議院議員選舉法第十一條醫師法第三條等ノ如キ是レナリトス

第三十六條

六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者

及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ

適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコト

ナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做ス

本條ハ輕罪ハ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ハ適用ニ付テハ公權ヲ停止セラレタルモノト看做ス旨ヲ規定シタルモノニシテ第三十四條ニ相當シ彼ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ關シ之ハ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ關スル差異アルニ過キサレナリトス因テ本條設定ノ趣旨ニ付テモ第三十四條ニ於テ説明シタルト同一ナリトス。

本條ニ於テハ公權剝奪ト異ナリ終身ニ非スシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做スカ故ニ刑ノ執行猶豫ノ場合ニハ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サル、コトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過スルマテ又犯人ヲ逮捕スル能ハサルカ如キ場合ニハ時効完成スルマテ公

權ヲ停止セラレタルモノト看做サル、モノトス而シテ本條ノ適用ヲ受ク可キ法規ハ民法第九百八條第三號民事訴訟法第三百十條第三號官吏恩給法第十二條第二號遺族扶助法第十六條第二項市町村制第九條第二項辯護士法第五條第三號等ノ如キ此レナリトス故ニ本條規定ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ大赦特赦其他ノ事由ニ因リ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテハ後見人証人トナルコトヲ得サルヘク公民權ハ停止セララルヘク官吏ハ恩給ヲ停止セラル可キモノナリトス。

第三十七條

他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三

條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサ

リシ場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ

規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

本條ハ人ノ資格ニ關シ舊刑法第三十一條及第三十三條ハ規定カ刑法施行後モ施行前ト同一ノ効力ヲ有スルコトアル可キ旨ヲ規定シタルモノニシテ畢竟本

法第三十四條及第三十六條規定ノ趣旨ヲ貫徹スル爲メニ設ケラレタル規定ナリトス。蓋シ刑罰法規以外ノ法律中舊刑法第三十一條及第三十三條ノ規定アルカ爲メ之ニ遵據スヘキモノトシ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサルモノアリ例ヘハ裁判所構成法第七十三條ノ如キ全ク判事ノ職ノ得喪ヲ刑法第三十一條第三十三條ノ規定ニ讓リタルモノナリ尙其他會計検査院法第六條第二項行政裁判所法第五條徵兵令等ノ如キモ皆然リトス。然ルニ此等ノ規定タル舊刑法ノ廢止ト共ニ全ク其用ヲ爲ス能ハサルニ至リ法定ノ刑ニ處セラレタル者モ判事會計検査官等ト爲ルコトヲ得ヘク兵役ニ就クコトヲ得ルニ至リ此等ノ法律ノ精神ニ反スル結果ヲ生スルニ至ルヘシ是ヲ以テ本條ハ此ノ如ク舊刑法第三十一條及第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ何等ノ規定ヲ設ケザリシ刑罰法以外ノ法律ノ適用ニ付キテハ舊刑法第三十一條及第三十三條ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有スル旨ヲ規定シ以テ本法第三十四條及第三十六條ノ規定ノ目的ヲ達セシメタルモノナリトス。

本條ノ規定アルカ爲メ上述裁判所構成法會計検査院法徵兵令等ノ規定ニ於

テハ人ノ資格ニ關シ何等別段ノ規定ナキニ拘ラス死刑無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ判事其他ノ官位ヲ奪ハル、ノミナラス此等ノ官吏ト爲ルコトヲ得サルモノトス(第三十四條尙本法第三十六條ノ規定適用セラレ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテハ新ニ此ノ如キ地位ニ就クヲ得サルノミナラス此ノ如キ地位ニ在ル者ハ其地位ヲ利用スルヲ得サルモノトス。

第七節 刑事訴訟法ノ改正ニ關スル規定

本節ハ刑事訴訟法ニ對スル改正並ニ加除ニ關スル規定ニシテ第三十八條乃至第五十三條ノ規定スル所ナリトス。蓋シ現行刑事訴訟法タルヤ全ク舊刑法ヲ運用スル爲メニ設ケタルモノナルヲ以テ之ヲ根本ヨリ改正スルニ非サレハ舊刑法ト全ク其規定ヲ異ニセル刑法ヲ運用スル爲メ適切ナラサルモノアルハ勿論ナリトス。然レトモ刑事訴訟法ヲ今日遽ニ改正スルハ容易ノ業ニ非サルカ故

ニ應急ノ手段トシテ本法ハ本節ノ規定ニ依リテ刑事訴訟法中ニ一部ノ改正ヲ加ヘ以テ刑法トノ調和ヲ圖レル所以ナリトス。

第三十八條 刑事訴訟法第八條ヲ左ノ如ク改ム

第八條 公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成

ス

- 一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年
- 二 無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年
- 三 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年
- 四 長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

五 刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ三年

六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

本條ハ刑事訴訟法ハ公訴時効ニ關スル同法第八條ハ改正ヲ規定シタルモノナリトス。蓋シ刑事訴訟法ハ舊刑法ノ罪別ニ據リ重罪輕罪違警罪ノ區別ニ從ヒ公訴時効ヲ定メタルモ刑法ハ此ノ如キ罪別ヲ認メサルヲ以テ刑法又ハ刑法ノ總則ノ適用ヲ受クル法律ノ罪ニ直ニ之ヲ適用スルヲ得サルノ不便アルノミナラス刑法第三十二條ノ刑ノ時効期間ニ比シ極メテ不權衡ナルカ故ニ本法ハ本條ノ規定ニ依リ之ヲ改正シタルモノナリトス。

舊刑法ニ於テハ重罪ノ時効ハ單ニ十年ト規定シ死刑ヲ他ノ重罪ト區別セザリシモ本條ハ死刑ニ該ル罪ハ特ニ重大ナルヲ以テ他罪ヨリ區別シ之ニ付テハ舊規定ヨリ五年ヲ加重シ十五年ト爲シ舊刑法ノ重懲役又ハ重禁獄以上ノ罪ニ相當スル刑法ノ無期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ從來ノ時効ト同シク之ヲ十年トシ舊刑法ノ輕懲役又ハ輕禁獄ニ相當スル刑法ノ長期五年以上十年以下ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ重罪中最モ輕キモノナルヲ

以テ之カ時効ヲ七年ト爲シ、又舊刑法ノ輕罪ニ相當スル刑法ノ長期五年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ從來ト同シク之ヲ三年ト爲シ、尙又舊刑法ノ違警罪ニ相當スル刑法ノ拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ舊規定ト同シク六月ト爲シタリ、尙ホ其他本條ハ刑法第百八十五條ノ罪タル賭博犯ノ時効ヲ一年ト爲シタリ是レ蓋シ舊刑法ニ於ケル賭博罪ハ現行犯ニ非サレハ所罰セラル、コトナカリシヲ以テ所謂公訴時効ナルモノナカリシト雖モ刑法ニ於テハ現ニ發覺セラル、コトヲ以テ其處罰條件ト爲サ、ルヲ以テ之ニ關シ時効期間ヲ定ムルノ必要ヲ生シ而モ該罪ハ本條第四號及第六號ノ罪ノ中間ニ位スルモノナルカ故ニ其ノ時効ヲ一年ト爲シタルモノナリトス。

而シテ尙ホ本條ハ舊規定ノ成就ナル文字ヲ完成ナル文字ニ變更シタリ蓋シ其意義ニ於テハ兩語間別ニ差異ナシト雖モ刑法及民法等ニ於テハ常ニ時効ノ完成ナル文字ヲ使用スルニ依リ此等ノ法文ト文字ノ一致ヲ圖ランカ爲メニ斯ル變更ヲ爲シタルモノナリトス。

第三十九條 刑事訴訟法第六十二條第三號ヲ左ノ如ク改

ム

第三 區裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢事ニ送致ス可シ

本條ハ刑事訴訟法ハ起訴ハ手續ニ關スル改正ヲ規定シタルモノナリトス、蓋シ刑事訴訟法第六十二條第三號ハ裁判所構成法第十六條ノ定ムル裁判管轄權ヲ標準トシ區裁判所ノ管轄ニ屬スト思料シタル場合ノ規定ナルモ同構成法第十六條ハ明治四十一年法律第三十號ヲ以テ改正セラレタルヲ以テ其結果刑事訴訟法ノ規定ヲ改正スルノ必要ヲ生シ本條ノ規定ヲ設ケタルモノナリトス、從テ其趣旨ニ於テハ何等ノ變更アルコトナシトス。

第四十條 刑事訴訟法第二百二十五條第二號ヲ左ノ如ク改

第二 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ

此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ黙秘ス可キモノニ關スルトキ

本條ハ證言ハ拒絕ニ關スル刑事訴訟法第二百二十五條第二號ノ改正ヲ規定シタルモノナリトス蓋シ刑事訴訟法第二百二十五條第二號ハ舊刑法第三百六十條ノ例外規定即チ假令法律規定ノ職ニ在ル者他人ノ秘密ヲ漏泄スルモ舊刑法第三百六十條規定ノ罪ヲ構成セサル場合ニ付キ規定シタルモノナリ然ルニ刑法ハ第三百三十四條ヲ以テ舊刑法第三百六十條ノ規定ヲ修正シタルヲ以テ該刑事訴訟法ノ規定ヲ其ノ刑法ノ相當規定ニ改正セサルニ於テハ一方ニ於テハ證人ヲ強制シテ證言ヲ爲サシメ他方ニ於テハ之ヲ罰スルノ不都合ヲ生スルニ至ルカ故ニ刑法施行ノ必要上本法ハ本條ノ規定ヲ設ケ該刑事訴訟法ノ規定ニ改正ヲ加ヘタルモノナリトス(拙著新刑法逐條義解第三百三十四條ノ説明ヲ參照スベシ)

第四十一條 刑事訴訟法第二百二十六條第一項中刑法第百

八十條ニ從ヒ罰金ヲ四拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ改メ

同條第二項中罰金ヲ罰金又ハ科料ニ改ム

同法第三百三十八條中刑法第百七十九條ニ從ヒ罰金ヲ四

拾圓以下ノ罰金又ハ科料ニ改ム

同法第四百四十四條第一項中罰金ヲ罰金又ハ科料ニ改ム

本條ハ刑事訴訟法中刑法ト罰金ハ範圍ヲ異ニスル舊刑法ハ規定ヲ援用シタルハ第百二十六條及第百三十八條ハ規定ヲ改正シタルモノナリトス蓋シ舊刑法ハ罰金ヲ貳圓以上トシ科料ヲ壹圓九拾五錢以下ト爲シタルニ拘ラス刑法ハ之ヲ改メテ罰金ヲ貳拾圓以上トシ科料ヲ貳拾圓以下ト爲シタルヲ以テ其結果舊刑法ノ罰金ハ刑法ノ罰金又ハ科料ニ相當スルニ至レリ從テ勢ヒ刑法ノ施行上舊刑法ノ規定ヲ援用シタル刑事訴訟法ノ規定ヲ改正スルノ必要ヲ生シ茲ニ本條ノ規定ヲ設ケタルモノナリトス故ニ本條ハ刑事訴訟法第百二十六條第一項

中ノ所謂罰金及同第三百三十八條中ノ所謂罰金ハ共ニ四圓以上十圓以下ノ罰金ナルヲ以テ刑法ノ罰金及科料ニ相當スルカ故ニ之ヲ四拾圓以下ハ罰金又ハ科料ト改メ又同第二百二十六條第二項中ノ罰金及同第四百四十四條第一項中ノ罰金ハ共ニ何等ノ制限ナキヲ以テ貳圓以上ノ罰金ナルカ故ニ之ヲモ亦罰金又ハ科料ト改メタルモノナリトス從テ本條ハ何等其ノ實質ニ變更ヲ及ホシタルニ非スシテ只刑法ノ施行ニ支障ナカラシメムトシタルニ過キサレモノトス。

第四十二條 刑事訴訟法第六十七條第一項ヲ左ノ如ク

改メ第三項ヲ削ル

被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルト

キハ公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ

本條ハ刑法ハ規定ト調和ヲ圖ル爲メ刑事訴訟法第六十七條第一項ハ改正及同第三項ハ削除ヲ規定シタルモノナリトス蓋シ刑事訴訟法第六十七條第一項ハ一方ニ於テ重罪輕罪ノ區別ヲ認メタル舊刑法ニ遵據シテ重罪公判輕罪

公判ノ區別ヲ爲シテ輕罪公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可キ旨ヲ規定セルモ刑法ニ於テハ重罪輕罪ノ區別ヲ認メサルヲ以テ刑法施行後ハ斯ル區別ヲ必要ナク單ニ公判ニ付スル言渡ヲ以テ十分タルニ至レリ且又他方ニ於テ刑事訴訟法第六十七條第一項ハ裁判所構成法第十六條第二號ニ依リテ豫審終結ノ手續ヲ規定シタルモ同條ハ既ニ第三十九條ニ於テ述ヘタル如ク刑法ノ規定ニ從ヒ明治四十一年法律第三十號ヲ以テ改正セラレタルヲ以テ其結果之ニ遵據シタル該刑事訴訟法ノ規定モ亦之ヲ改正スルノ必要ヲ生シ因テ茲ニ本條ノ規定ノ設ケラレタル所以ナリトス。

又刑事訴訟法第六十七條第三項ハ舊刑法ノ重罪輕罪ノ區別ニ基キテ保釋責付及ヒ令狀ヲ發スルコトニ付キ規定シタルモ刑法ニ於テハ重罪輕罪ノ區別ヲ認メサルノミナラス同條規定ノ如キ場合ニ付テハ此ノ如キ規定ナシト雖モ刑事訴訟法第七十五條第五百十條及第六十四條等ノ規定アルヲ以テ十分ナルカ故ニ結局不必要ト認メ本條ハ其後段ノ規定ヲ以テ之ヲ削除スルコト、爲シタルモノナリトス。

上述ノ如ク本條ノ規定及ヒ次條以下ノ規定ニ依リ刑事訴訟法中重罪公判及
輕罪公判ノ名稱ヲ廢止シタリト雖モ尙ホ重罪事件ニ付テハ豫審ヲ求ムヘキ旨
ヲ定メタル刑事訴訟法第六十二條及辯護人ヲ付スヘキ旨ヲ定メタル同第二百
三十七條ノ規定等ニハ重罪事件ナル名稱存在スルカ故ニ是等ノ規定ニ付テハ
宜シク本法第二十九條ノ適用アル可キモノトス。

第四十三條 刑事訴訟法第七十二條ヲ左ノ如ク改ム

第七十二條 檢事ハ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗
告ヲ爲スコトヲ得

本條ハ重罪公判ニ關スル刑事訴訟法第七十二條ハ改正ヲ規定シタルモハ
ナリトス蓋シ前條ニ於テ述ヘタル如ク刑法施行後ハ重罪公判ニ付スル言渡又
ハ輕罪公判ニ付スル言渡ノ區別カ全ク不必要ナルニ至リタルヲ以テ其結果形
式上重罪公判ニ付スルノ決定ナルモノモ亦之ナキニ至リタルカ故ニ本法ハ本
條ノ規定ヲ以テ重罪公判ニ付スル決定ニ對スル抗告ヲ總テ廢止シタルモノナ
リトス。

第四十四條 刑事訴訟法第二百三十六條中輕罪重罪ノヲ
削ル

本條ハ刑事訴訟法第二百三十六條中ハ重罪輕罪ナル文字ヲ刪除ス可キ旨ヲ
規定シタルモノナリトス是レ蓋シ前二條ニ於テ述ヘタル如ク刑法施行後ハ公
判ニ付キ重罪輕罪ノ區別之レナキニ至リシヲ以テナリトス。

第四十五條 刑事訴訟法第二百四十一條ヲ左ノ如ク改ム

第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル
事件ヲ重罪ナリトスルトキハ其事件ヲ豫審判事ニ送
付スル決定ヲ爲スコシ檢事ノ請求アルトキ亦同シ
被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲ
シテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ
受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

本條モ前三條ト同一理由ニ基キ刑事訴訟法第二百四十一條ハ改正ヲ規定シタルモノナリトス蓋シ刑事訴訟法第二百四十一條第一項ハ其前段ニ於テ事件ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲ス原因ニ付キ規定シ同第二項ハ被告事件豫審ヲ經タルトキニ關シ規定シタルモ本法第四十二條ハ刑事訴訟法中ノ重罪公判ニ付スル決定ト輕罪公判ニ付スル決定トノ區別ヲ廢止シタルヲ以テ其當然ノ結果トシテ本條ハ是等ノ規定中ヨリ重罪事件ナル文字ヲ刪除シタルモノナリトス且又刑法施行後ハ重罪輕罪ノ區別ニ從ヒ拘留スルト否トノ區別ヲ認ムルノ必要ナキヲ以テ同シク本條ハ同第二百四十一條第一項但書ノ規定ヲ削除シタルモノナリトス。

第四十六條 刑事訴訟法第二百六十四條中「更ニ重罪事件

トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ爲シテ削除

本條モ前條ト同一理由ニ依リ刑事訴訟法第二百六十四條ハ改正ヲ規定シタルモノナリトス蓋シ前條ニ規定シタル刑事訴訟法第二百四十一條第二項ノ規定ト同様本法第四十二條ノ規定ノ設ケラレタル當然ノ結果トシテ本條ハ刑事

訴訟法第二百六十四條中ノ重罪事件云々ナル文字ヲ削除シタルモノナリトス。

第四十七條 刑事訴訟法第三百十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

監獄ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主刑ノ執行ハ其重キ

モノヲ先ニス但特別ノ事由アルトキハ檢事ハ重キ刑ノ

執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

本條ハ刑ハ執行順序ニ付キ刑事訴訟法第三百十七條ハ規定ヲ補ヒタルモノナリトス蓋シ二個以上ノ主刑ヲ執行スル場合ニ當リテハ其之ヲ同時ニ執行スルコト能ハサルヲ以テ特別ノ事由ナキ限りハ其中最モ重キ刑ノ執行ヲ先ニシ順次輕キモノニ及フヲ相當トス可シ殊ニ彼ノ死刑ト懲役又ハ禁錮トヲ同時ニ執行ス可キ場合ノ如キ死刑ノ裁判確定シタルニ拘ラス之ヲ執行セスシテ懲役又ハ禁錮ヲ執行スルカ如キハ管ニ其ノ必要ナキノミナラス刑法第四十六條ノ趣旨ニモ反スルコトナル可シ然ルニ刑事訴訟法ハ此ノ點ニ關シ何等ノ規定ヲモ設ケサルヲ以テ其執行ノ前後ハ全ク執行官ノ隨意トナリ各監獄ニ於テ其

取扱ヲ異ニシ不公平ノ結果ヲ生スルコトナキヲ保セサル可シ是ヲ以テ本法ハ本條ノ規定ヲ設ケ刑ノ執行順序ヲ定メ以テ刑事訴訟法ノ規定ヲ補ヒ且ツ舊刑法第九十五條ノ規定ニ代ラシメタル所以ナリトス但シ本條ニハ監獄ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主刑云々トアルカ故ニ彼ノ勞役場留置ハ本條ノ適用ヲ受ケスシテ檢事ニ於テ適宜其執行ヲ指揮ス可キモノトス。

而シテ本條但書規定ノ必要ナル所以ハ例ヘハ定役刑ト不定役ト共ニ執行ス可キ場合ニ於テ其受刑者ニ對シ假出獄ヲ許サントスルニ當リ若シ此ノ如キ但書ノ規定ナキニ於テハ定役刑ノ全部ヲ執行シ終リタル後不定役刑ノ刑期三分ノ一ヲ過クルニ非サレハ假出獄ヲ許スヲ得サル可キモ蓋シ定役刑ハ不定役ヨリモ重ケレハナリトス刑法第九條乃至第十三條及ヒ第二十八條參照本條但書ノ如ク特別ノ事由アルトキハ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得セシムルニ於テハ如上ノ場合ニハ定役刑ノ刑期三分ノ一ヲ執行シタル後其執行ヲ停止シ不定役刑ノ刑期三分ノ一ヲ執行シ而シテ假出獄ヲ許スコトヲ得セシムルノ便宜アレハナリトス。

第四十八條 刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ

加フ

第三百十八條ノ二 死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ

死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但

檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三百十八條ノ三 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失

シタルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其痊癒ニ至ルマ

テ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後司

法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

本條ハ死刑ハ執行ニ關シ刑事訴訟法ハ不備ヲ補ヒタルモノナリトス蓋シ舊

刑法ハ其第十五條及ヒ附則第一條第二條第五條等ニ於テ死刑ノ執行手續ニ關スル規定ヲ設ケタリシヲ以テ舊刑法ニ遵據シタル刑事訴訟法ニ於テハ此點ニ關シ十分ナル規定ヲ設ケサリシナリ然リト雖モ舊刑法ニ代リタル刑法ニ於テハ此ノ如キコトハ總テ之ヲ手續法ニ讓ル目的ヲ以テ何等ノ規定ヲモ設ケサリシカ故ニ本法ハ本條ノ規定ヲ以テ此ノコトニ關スル刑事訴訟法ノ缺陷ヲ補ヒタル所以ナリトス。

第四十九條 刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ左ノ

- 一項ヲ加フ
- 懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得
- 一 心神喪失ノ状態ニ在ルトキ
- 二 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルト

キ

三 受胎後七月以上ナルトキ

四 分娩後一月ヲ經過セサルトキ

本條モ自由刑ハ執行停止ニ關シ刑事訴訟法ハ不備ヲ補ヒタルモノナリトス、蓋シ自由刑ノ執行停止ニ關シテハ舊刑法ニ於テモ全ク規定セサル所ニシテ又刑法ニ於テモ之ヲ特別法ニ讓ル目的ヲ以テ何等ノ規定ヲモ設ケサルナリ、然レトモ道義上人權ヲ尊重スル點ヨリ觀テ最モ必要ナルコトナルヲ以テ本法ハ本條ノ規定ニ依リ刑事訴訟法第三百十九條第二項ノ規定トシテ新ニ此ノコトニ關シ規定ヲ設ケタル所以ナリトス。

第五十條 刑事訴訟法第三百二十條中之ヲ爲ス可シノ下

- 三 刑ノ執行ノ停止ニ付キ亦同シテ加ヘ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
- 前項ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定

ヲ準用ス

本條ハ前二條規定ハ結果刑事訴訟法第三百二十條ノ規定ニ補修ヲ加ヘタルモハナリトス蓋シ前二條ノ規定ニ依リ刑ノ執行ヲ停止スル場合ヲ認メタルヲ以テ本條ニ依リ刑ノ執行ノ停止ノ指揮ヲ刑ノ執行ト同シク檢事ノ職權ニ屬セシメタルモノナリトス但シ此ノコトニ付テハ刑ノ執行ニ着手スル以前ニ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ檢事ノ職權ニ屬セシメ刑ノ執行中其執行ヲ停止スル場合ヲ他ノ職權ニ屬セシムルノ立法例アリト雖モ我國法ニ於テハ刑ノ執行ニ着手スル以前ニ其執行ヲ停止スル場合ナルト刑ノ執行中其停止ヲ爲スヘキ場合ナルトヲ區別セス共ニ執行ノ指揮ヲ爲ス可キ檢事ノ職權ニ屬セシメ之ヲ刑事訴訟法中ニ規定セリ。

而シテ又本條カ刑事訴訟第三百二十條第三項ノ規定ヲ新設シ罰金等ノ徵收ニ付テ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用シ以テ強制執行ノ手續ヲ用フルヲ得セシメタルハ刑法第十八條ニ依リ自ラ強制執行ノ手續ヲ爲サシムルノ趣旨ヲ包含スルカ爲メ前項タル第二項ノ規定ヲ適用スルノ準則ヲ定メタルモノナリトス。

第五十一條 刑事訴訟法第二十四條第六十三條第六十八條第七十三條及第七十四條但書ハ之ヲ削除ス

本條ハ刑法施行ノ爲メ必要トナリタル刑事訴訟法ノ規定ヲ削除シタルモノナリトス蓋シ同法第二十四條ハ舊刑法第一百四條第一百五條ノ規定ニ基キ親屬ニ關スル規定ヲ設ケタルモ舊刑法ニ代リタル刑法ニ於テハ總テ民法ノ親族例ニ依ラシムルコトト爲シタルヲ以テ刑事訴訟法ニ於テモ刑法施行後ハ總テ民法ノ規定ニ依ラシムルハ足ルコトト爲リ結局同條ノ規定ハ其必要ナキニ至リタルカ故ニ茲ニ之ヲ削除シタルモノナリトス又同法第六十三條ハ裁判所構成法第十六條ノ規定ヲ準用シタル規定ナルモ既ニ第三十九條及第四十二條ニ於テ説明シタル如ク同第十六條ハ改正セラレタルヲ以テ該刑事訴訟法ノ規定ハ其必要ナキニ至リタルカ故ニ本條ハ之ヲ削除シタルナリトス又同法第六十八條ノ規定ハ本法第四十二條ノ規定アルヨリ當然ノ結果トシテ其用ナキニ至リタルヲ以テ茲ニ削除セラレタルモノトス又同法第七十三條ノ規定モ

本法第四十三條ノ規定ニ依リ重罪公判ニ付スル決定ニ對スル抗告ヲ廢止シタル結果全ク不用ニ歸シタルヲ以テ之ヲ削除シタルモノトス尙又同法第七十四條但書ノ規定ハ本法第四十二條ニ依リ刑事訴訟法第六十七條第三項ヲ削除シ且ツ本條ノ規定ニ依リ同第六十八條ヲ規定ヲ削リタルヨリ當然ノ結果トシテ不用ニ歸シタルヲ以テ之又削除セラレタルモノナラトス。

第五十二條 刑事訴訟法中復權及ヒ特赦ニ關スル規定ハ之ヲ削ル

本條ハ刑事訴訟法中復權及特赦ニ關スル規定ハ削除ヲ定メタルモノナラトス蓋シ刑法ニ於テハ復權及特赦ハ大權事項ナルヲ以テ之ヲ勅令ニ譲リ之ニ關スル規定ヲ設ケサルカ故ニ刑法施行後ハ刑事訴訟法中ノ之ニ關スル規定ハ全ク其用ヲ失フ可シ因テ本條ハ同法中ノ之ニ關スル規定ヲ削除シタルモノナラトス

第五十三條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依

刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢察其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

本條ハ刑法第五十三條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ關シ規定シタルモノナラトス蓋シ刑法第五十二條及第五十八條ハ新規定ニシテ刑事訴訟法中ニ關スル手續ヲ定メタル法則ナキヲ以テ是等ノ規定ヲ適用スルニ當リ何人カ如何ナル手續ニ依リテ刑ヲ定ムヘキヤ不明ナルカ故ニ本法ハ本條ニ於テ特ニ之ニ關スル規定ヲ設ケ其ノ犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢察其ノ裁判所ニ請求シ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ以テ刑ヲ定ムヘキモノトシ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ

許セル所以ナリトス

第八節 刑ノ執行猶豫ニ關スル規定

本節ノ規定ハ刑ノ執行猶豫ノ手續ニ關スルモノニシテ第五十四條乃至第五十九條ノ規定即チ是レナリトス抑々刑ノ執行猶豫ナル制度ハ軌近發達セルモノニシテ舊刑法ニ於テハ此制度ヲ認メザリシヲ以テ之ニ遵據シタル刑事訴訟法又ハ其他ノ法律ニ於テモ之ニ關シ何等ノ手續上ノ規定ヲ有セザリキ然ルニ其後刑ノ執行猶豫ナル制度ヲ設クルノ必要ヲ感シ既ニ明治三十八年法律第七十號ヲ以テ之ヲ設ケ其實質及手續ニ付キ必要ナル一切ノ規定ヲ爲シタリ然レトモ刑法ニ於テハ單ニ刑ノ執行猶豫ニ關スル實質的規定ノミヲ設ケタルヲ以テ刑法施行後該執行猶豫法廢止セラルトキハ之カ手續ニ關スル規定ヲ缺如スルニ至ル可シ是ヲ以テ本法ハ本節ノ規定中ニ之ヲ設ケ以テ刑法ノ執行猶豫ニ關スル規定ヲ運用セシムルコト、爲シタルモノナリトス。

第五十四條 刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ

因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

本條ハ執行猶豫ヲ言渡ス手續ヲ定メタルモノニシテ法律第七十號執行猶豫法第三條第一項ト同趣旨ハ規定ナリトス蓋シ刑ノ言渡ト同時ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲サシムルハ刑法第二十七條ニ定ムル執行猶豫ノ言渡ノ效果即チ條件附刑ノ言渡タルノ趣旨ヨリ生スル當然ノ結果ナリトス從テ一旦判決アリタル以上ハ判決未確定ノ間ト雖モ更ニ言渡ヲ爲スコトヲ得サルモノトス蓋シ一旦言渡シタル判決ヲ更ニ決定ヲ以テ變更スルハ決定ヲ以テ判決ヲ變更スルノ嫌アルノミナラス裁判ノ威信ヲ害スルコト甚シケレハナリトス而シテ刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ爲ス可キモノトス即チ檢事ハ刑ノ執行猶豫ヲ請求スルノ權利アルモ裁判所ハ之レアリタリト否トヲ問ハス常ニ自由ナル心證ヲ以テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲ス可キモノナリトス。

第五十五條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其効力ヲ

失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ
此限ニ在ラス

上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

本條ハ刑ハ執行猶豫ハ言渡ハ上訴ニ因リ其効力ヲ失フコトナキ旨ヲ規定シタルモノニシテ舊執行猶豫法第五條ノ規定ヲ修正シタルモノトス即チ同五條ハ上訴アリタルトキハ刑ノ執行猶豫ノ裁判ハ當然其効力ヲ失フ可キ旨ヲ規定シタルモ斯ル規定ハ實際ノ取扱上極メテ不便ナルカ故ニ本法ハ之ヲ改正シタルモノトス然レトモ原判決取消サレ又ハ破毀シタル場合ニハ刑ノ執行猶豫ヲ與ヘタル基本ノ刑ニ影響ヲ及ホスヲ以テ執行猶豫ノ言渡ニモ其影響アルコト勿論ナレハ此場合ニハ刑ノ執行猶豫ノ言渡モ其効力ヲ失フ可キモノナリ蓋シ抑刑ノ執行猶豫ノ言渡モ又一ノ判決ナリ既ニ判決タル以上ハ他ノ本案ニ付テノ判決ト同シク上訴審ニ於テ其刑ノ執行猶豫ヲ與ヘタル犯罪事件ノ本案ニ付更ニ判決ヲ爲スニ非カレハ原則トシテ上訴ニ因リ何等ノ影響ヲ受ク可キモノ

ニ非スト雖モ刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ常ニ本案ノ判決ニ於テ刑ノ言渡ヲ受クルコトヲ條件トシ有罪ノ判決ニ隨伴スルモノナレハ上訴裁判所ニ於テ本案ニ付キ原判決ヲ取消又ハ破毀シタルトキハ執行猶豫ノ言渡ハ最早存在ノ條件ヲ失シタルモノナルヲ以テ當然消滅ニ歸セサル可カラサレハナリトス是レ本條第一項ノ規定アル所以ナリ

本條第二項ハ上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ規定シタルモノニシテ舊執行猶豫法第五條但書ニ該當スル規定ナリトス蓋シ前條ニ依レハ刑ノ執行猶豫ニ裁判所カ刑ノ言渡ト同時ニ言渡スモノニシテ之ヲ言渡ス裁判所ノ階級ニ何等ノ制限カキカ故ニ苟クモ刑法第二十五條規定ノ條件ヲ具備スル刑ヲ言渡ストキハ第一審裁判所タルト上訴裁判所タルトモ同ハス常ニ之ヲ言渡スコトヲ得ヘキハ當然ノ理ナルノミナラス刑ノ執行猶豫ノ如キ便宜上ノ問題ハ其之ヲ言渡スヲ適當ト認メタル場合ニハ如何ナル裁判所モ常ニ之カ言渡ヲ爲シ得ルコトヲ以テ便宜トスレカナリトス殊ニ上訴ヲ理由ナシト認メ之ヲ棄却スル場合ニ於テハ刑ノ言渡ナルモノナキカ故ニ前條ニ依リ

テ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スヲ得サルカスル場合ニモ執行猶豫ヲ與フルヲ適當ナリト認ムルコトナキニ非ス因テ本法ハ上訴裁判カ執行猶豫ノ言渡アリタル第一審判決ヲ取消又ハ破毀シタルトキハ勿論原審判決ニ執行猶豫ノ言渡ナキ場合ト雖モ新ニ之カ言渡ヲ爲スコトヲ得セシムルヲ至當ト認メ本項ノ規定ヲ設ケタルモノナリトス而シテ茲ニ上訴裁判所ニ付テハ何等ノ制限ナキヲ以テ控訴裁判所ハ勿論上告裁判所ニ於テモ尙ホ執行猶豫ノ言渡ヲ爲シ得ルモノト解スルヲ至當トスルカ如シ。

第五十六條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ニ於

テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ
 前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告

ヲ爲スニトナ得

本條ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘキ場合ハ手續ニ關スル規定ニシテ舊執行猶豫法第七條ニ該當スルモノトス

本條ノ規定ニ依レハ刑ノ執行猶豫ヲ取消ス可キ管轄裁判所ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ナリトス蓋シ舊執行猶豫法ニテハ單ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ノ地方裁判所ト爲シタルトモ被告人ノ所在地ノ不明ナルトキハ管轄裁判ヲ定ムルコト能ハサルヲ以テ本法ハ被告人ノ所在地ノ外ニ最後ノ住所地ナル文字ヲ加ヘタルナリトス而シテ茲ニ所謂住所ハ單ニ生活ノ本據ノミナラス民法ニ所謂居所モ亦之ヲ包含スルノ意ナリトス蓋シ本條ノ規定ハ成ヘク管轄裁判所ヲ確定セシメンカ爲メニ特ニ設ケタル規定ナレハナリ而シテ又茲ニ地方裁判所ハ其支部ヲモ尙之ヲ包含スルノ意ナリトス蓋シ地方裁判所支部ハ地方裁判所本部ト同様ニシテ其取扱フ所ノ事務ハ全ク地方裁判所ノ事務ナレバナリトス尙又本條ノ規定ニ依レハ刑ノ執行猶豫ノ取消ノ方式ハ決定ニシテ檢事ノ請求ヲ俟テ被告人又ハ其

代理人ノ意見ヲ聽キタル上爲ス可キモノトス從テ刑ノ執行猶豫ノ取消ハ檢事ノ請求アリテ始メテ爲ス可キモノニシテ裁判所ハ進テ之ヲ爲スヲ得サルナリ、然レトモ其取消ヲ與フルト否トハ全ク裁判所ノ自由ニシテ裁判所ハ決シテ檢事ノ請求ニ羈束セラル、コトナキモノトス。

第五十七條 第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テ

ハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

本條ハ第五十三條及前條第二項末段ノ規定ニ於テ抗告ヲ許シタル結果之カ手續ヲ要スルニ至リタルヲ以テ之ニ付キ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス可キコトヲ規定シタルモノナリトス從テ此等ノ決定ニ付テハ刑事訴訟法第百六十九條ヲ準用シ事實及法律ニ依リ其理由ヲ付ス可ク其決定ノ正本ハ同法第百七十一條ヲ準用ス可キモノトス又抗告ニ付キテハ同法第五編第四章ノ規定ヲ準用シ抗告裁判所抗告期間申立書ノ提出等ヲ定ム可キモノトス。

第五十八條 明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行

猶豫ノ言渡ヲ受ケ仍ホ猶豫ノ期間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

本條ハ舊執行猶豫法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者刑法施行ノ際仍ホ其ノ猶豫期間ヲ經過セサルトキハ刑法施行後ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ハ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス可キ旨ヲ規定シタルモノナリトス。

本條ノ規定アルニ因リ舊執行猶豫法ノ適用ヲ受クルニ比シ執行猶豫ノ取消事由ニ關シ刑法第二十六條第三號ノ場合ニ該當スルトキハ期間ニ付多少ノ不利益アルモ同法第二十七條ニ依リ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サル、コトナクシテ猶豫期間ヲ經過シタルトキハ著シク利益ヲ受クルニ至ル可シ即チ單ニ刑ノ執行ヲ免除セラル、ノミナラス刑ノ言渡モ全然其効力ヲ失フニ至ル可ク又舊規定ニ依レハ上訴ニ依リ執行猶豫ノ裁判ハ當然其効力ヲ失フモ本法ニ依レハ斯ルコトナキカ故ニ施行ノ當時判決未タ確定セサルトキニハ被告ハ本法第五十五條ノ利益ヲ受クルヲ得ヘキカ如キ是レナリトス。

而シテ本條ハ施行當時未タ猶豫期間ノ滿了セサル者ノミニ適用スル規定ナ

ルヲ以テ施行當時既ニ期間ヲ滿了シタル者ニ對シテハ本條ノ適用ナク從テ以
上ノ利益ヲ享クルコト能ハサルモノトス是レ本法第十八條第一項ニ於テ既ニ
徵收シタル附加罰金ヲ還付セサルト均シク既濟ノ處分ニ遡及シテ效力ヲ變更
セサルノ趣旨ニ出テタルモノナリトス。

第五十九條 明治三十九年法律第五十四號ハ之ヲ廢止ス

本條ハ明治三十九年法律第五十四號ヲ廢止ス、キ旨ヲ規定シタルモノナリ
トス蓋シ該法律ハ舊執行猶豫法ニ依リ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ハ其ノ猶
豫期間市町村ノ公民權ヲ停止シ市町村會議員北海道會議員及衆議院議員ノ選
舉權被選舉權ヲ有セサルモノトスル旨ヲ規定シタルモノニシテ刑ノ言渡ノ効
力ニハ影響ヲ及ホサスシテ單ニ猶豫セラレタル刑ノ執行ヲ免除スルコトヲ主
義トセル舊執行猶豫法ニ從ヒ設ケラレタルモノナルガ刑法ニ於テ認ムル所ノ
執行猶豫ハ單ニ刑ノ執行ヲ免除スルノミナラス刑ノ言渡モ全然其效力ヲ失ハ
シムルモノナルヲ以テ該法律ハ刑法ト其主義ヲ反スルノミナラス本條第三十
六條ノ規定ニ依リ刑ノ執行猶豫ヲ受ケタル者ハ當然其執行ヲ終ルマテ公權ヲ

停止セラル、ヲ以テ該法律ノ規定ヲ存置セシムルノ必要ナキヲ以テナズトス

第九節 賠償處分ニ關スル規定

本節ノ規定ハ賠償處分ニ關シ定メタルモノニシテ第六十條及ヒ第六十一條
ノ規定スル所ナリトス蓋シ舊刑法ニ於テハ賠償處分ニ關スル規定ヲ同法ノ外
刑法附則中ニ規定シタリト雖モ同附則ハ舊刑法ト同時ニ廢止セラレタルヲ以
テ(本法附則第二項其内ニ付キ特ニ刑法ヲ實施スルニ必要ナル規定ノミヲ選擇
シ且一部改正ヲ爲シテ本法ニ規定シタルモノナリトス。

第六十條 私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式

ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

本條ハ附帶私訴ハ法式ニ關スル規定ニシテ舊刑法附則第六十一條ノ規定ニ
修正ヲ加ヘタルモノナルカ其趣旨ニ至リテハ同一ナリトス即チ本條ノ規定ニ
依レハ私訴カ公訴ニ附帶スルトキ即チ附帶私訴ノ提起ハ民事訴訟法規定ノ方
式ニ依ルコトナク書面又ハ口頭ヲ以テ爲スコトヲ得ヘキモノトス從テ書面ヲ

以テ附帶私訴ヲ提起スル場合ニ於テモ民事訴訟ノ訴狀ノ要件ヲ具備スルヲ要セシテ通常文書ニ依リ之ヲ認ムルコトヲ得可ク且其書面ニハ民事訴訟ノ場合ニ於ケル如ク印紙ノ貼用ヲモ要セサルナリトス。

第六十一條 贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナ

シト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲ス可シ

本條ハ贓物ハ返還ニ關スル規定ニシテ舊刑法第四十八條ノ規定ヲ修正シタルモノナリトス蓋シ元來此等ノ規定ハ手續法ニ關スルモノナルカ故ニ刑事訴訟法ニ規定ス可キモノナレトモ舊刑法中ニ之カ規定存セシヲ以テ刑事訴訟法中ニハ該規定ヲ缺如セシナルカ刑法ハ唯實質的規定ノミヲ設ケ之ヲ手續法ニ譲リタルニ依リ刑法施行後ニ於テモ必要ナル本條ヲ本法ニ規定スルニ至リタルモノナリトス。

抑モ犯罪ニ因リテ得タル物件カ犯人以外ノ者ノ所有ニ屬スルトキハ之ヲ沒收スルコト能ハサルハ明カナリ(刑法第十九條第二項)然レトモ純粹ノ民事上ノ理論ヨリ謂フトキハ被害者ハ民事訴訟又ハ私訴ヲ提起スルニ非サレハ之カ返

還ヲ受クルコトヲ得サルヲ原則トスルナリ然リト雖モ斯ノ如キ手續ハ獨リ被害者カ常ニ私訴ヲ起サ、ル可カラサル不便アルツミナラス裁判所ニ於テモ無益ニ手數ヲ増加スルノ煩累アル可ク且ツ公訴ノ審理上犯人ニ何等ノ權利ナキコト明ラカトナリシニ拘ラス裁判所ニ於テ犯人ニ還付セシムルトキハ犯人ニ不當ノ利益ヲ得セシムル嫌アルヲ以テ舊刑法以來本條ノ如キ規定ヲ設ケ贓物カ現ニ犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付ス可キモノト爲シタルナリ然レトモ本條ハ被害者ニ請求權アルコトヲ前提ト爲スヲ以テ若シ被害者ニ請求權ナキ場合ニハ本條ハ適用ナキモノトス例ヘハ犯人カ質權又ハ抵當權ヲ有スル物ヲ横領シタル場合ノ如キハ犯人ハ其物ニ關シ犯罪後モ依然トシテ質權又ハ抵當權ヲ有スルヲ以テ此場合ニハ直ニ裁判所ハ被害者ニ該物件ヲ還付スル能ハサルナリトス。

本條ノ規定ニ關シ舊刑法ニテハ單ニ還付スル規定シタレトモ之ヲ還付スルニハ判決ヲ以テ言渡ス可キモノナルコトハ從來ノ慣例ナルヲ以テ本法ハ特ニ此事ヲ明示シ還付ハ言渡ヲ爲ス可シト規定シタリ又本條ニ所謂贓物トハ犯罪

ノ目的タル物件ニシテ其物ノ取得ニ依リテ犯罪ヲ構成スル物件ヲ謂フナリ故
ニ例之竊取強取シタル物件及ヒ騙取シタル物件ハ強竊盜及詐欺取財ノ贓物ナ
レトモ賭博ニ因リテ得タル賭錢ノ如キハ賭錢ノ取得其物ハ犯罪ノ構成ニ何等
ノ影響ナキカ故ニ贓物ニ非ス從テ本條ノ適用ヲ受ク可キモノニ非ルナリトス
(拙著新刑法逐條義解第三十九章參照)

第十節 訴訟費用ニ關スル規定

本節ノ規定ハ公訴ニ關スル訴訟費用ニ付キ定メタルモノニシテ第六十二條
乃至第六十七條ノ規定スル所ナリトス蓋シ舊刑法ニ於テハ訴訟費用ニ關シ同
法ノ外同法附則中ニ刑事裁判費用ナル一章ヲ設ケテ之ヲ規定シタリ而シテ此
等ノ規定ハ刑法施行後ニ於テモ必要ナルコト勿論ナルカ元來此等ハ刑法施行
ノ爲メニ必要ナル規定ニ非スシテ寧ロ刑事訴訟法運用ノ爲メニ必要ナル規定
ナルカ故ニ刑事訴訟法中ニ規定スルヲ適當トスルナリ然レトモ舊刑法ニテハ
同附則ニ之ニ關スル規定ヲ設ケタルヲ以テ刑事訴訟法ニハ之ヲ缺如ス而シテ

舊刑法附則ハ舊刑法ト共ニ刑法施行ノ時ヨリ廢止セラル、ヲ以テ此等ノ中必
要ナルモノヲ選ミ且ツ多少ノ増補ヲ爲シテ本法ニ本節ノ規定ヲ設ケタルモノ
ナリトス。

第六十二條 左ニ記載シタルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴

訟費用トス

- 一 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人鑑定人及ヒ通事
- ニ給與ス可キ日當旅費及ヒ止宿料

二 第六十六條ニ記載シタル費用

本條ハ公訴ニ關スル訴訟費用ハ何タルヤハ定メタルモノハニシテ舊刑法附則
第四十八條ヲ修正シタルモノナルカ其趣旨ハ同一ナリトス本條ノ規定ニ依レ
ハ公訴裁判費下ハ豫審又ハ公判ニ呼出サレタル證人鑑定人及ヒ通事ニ給與ス
ル日當旅費止宿料及ヒ鑑定並ニ通譯ノ爲メニ特ニ要シタル費用ヲ謂フモノ
ナリ而シテ證人鑑定人及通事下ハ民事訴訟法及刑事訴訟法等ノ規定ニ從ヒ裁

判所ニ於テ證人鑑定人及ヒ通事トシテ呼出ガレタル者ヲ謂フナリ(拙著新刑法
逐條義解第二十章參照)

第六十三條 証人鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ左ノ範圍内ニ

於テ豫審判事受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

- 一 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付金貳拾錢乃至金五拾
- 錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セ

ス

- 二 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金參拾

第六十四條 錢乃至金五圓

本條ハ訴訟費用中日當ニ關スル規定ニシテ舊刑法附則第四十九條及第四十
九條ノ乙ヲ修正シタルモノナリ其趣旨ハ勿論金額乃至於全ク同一ナリ
唯給與額ヲ定ムル者ノ中ニ受託判事ヲ添加シタルノミナリトス蓋シ證人鑑定

人及ヒ通事ノ日當ハ豫審ニ於テ生シタルモノハ豫審判事之ヲ定メ公判ニ於テ
生シタルモノハ裁判所之ヲ定メ若シ囑託ヲ受ケテ呼出シタルトキニハ受託判
事之ヲ定ムルヲ適當ト爲シハナリ然レモ日當額ヲ殆布三十年前ニ定メ
タル標準ト同一ニシタルハ物價騰貴ノ當時ニ比シテ數倍又數十倍セル今日
ノ社會ニ適當ナリヤ否ヤハ疑問ト爲サルヲ得ナルナリ

第六十四條 證人鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ海陸路二里ニ

付キ金五錢乃至金貳拾錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事受託
判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線以上ナルトキハ最
近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

前項ニ掲ケタル者ノ止宿料ハ一日ニ付キ金貳拾錢乃至
金壹圓ノ範圍内ニ於テ豫審判事受託判事又ハ裁判所之
ヲ定ム但八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スルトキニ非ザレ

ハ之ヲ給與セス

本條ハ證人鑑定人及ヒ通事ニ給與ス可キ旅費及ヒ止宿料ニ關スル規定ニシテ舊刑法附則第四十九條及第四十九條ノ丁ヲ修正シタルモノナルカ其趣旨ハ同一ナリ唯給與額ヲ定ムル者ノ中ニ受託判事ヲ加ヘタルコト及ヒ給與金額ノ範圍ヲ多少擴張シタルノ差異アルノミナリトス

第六十五條

證人鑑定人及ヒ通事ノ日當旅費及ヒ止宿料

豫審ニ於テハ其終結前公判ニ於テハ其判決前ニ本人

ヨリ請求スルニ非ザレバ之ヲ給與セズ

本條ハ證人鑑定人及ヒ通事ニ給與ス可キ日當旅費及ヒ止宿料ヲ請求ス可キ期間ヲ定メタルモノニシテ舊刑法附則第五十條ノ規定ニ多少ノ修正ヲ加ヘタルモノナルカ其趣旨ハ同一ナリ且本條ノ規定ニ依リテ豫審終結後又ハ本案ノ判決後ニ於テハ證人鑑定人及ヒ通事其日當旅費及ヒ止宿料ノ請求ヲ爲スモ之ヲ受クルコトヲ得サルモノトス是レ蓋シ豫審終結後又ハ本案ノ判決後ニ至ルモ仍ホ之ヲ許スルモハ事件ノ終結ニ關シテ記録其他之整理上不便甚シク

レハナリトス

第六十六條 鑑定通譯ニ付キ數多ク時間又ハ特別ノ技能

若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ

給與スルコトヲ得

本條ハ第六十三條ノ規定ハ標準ハミニ依リテ能ハサル特別ノ場合ニ於ケル特別手當ニ關スル規定ニシテ舊刑法附則第五十二條ト同一趣旨ノ規定ナリトス蓋シ證人ノ如キハ單ニ裁判所ニ出頭シ訊問ニ答フルノミナルヲ以テ特別費用ヲ給與スルノ必要ナシト雖モ鑑定及ヒ通譯ハ事件複雑ニシテ到底短日月ノ間ニ終ハラサルコトアリ又之レカ爲メニ特別ノ技能ヲ要シ多大ノ費用ヲ投スルニ非ザレバ其目的ヲ達スル能ハサルコトアリ若シ斯ル場合ニ單ニ此等ノ者ニ日當旅費及ヒ止宿料ノミヲ給スルニ於テハ此等ノ者ハ不當ノ損害ヲ蒙ルニ至ルヲ以テ本條ノ規定ヲ設ケ此等ノ者ニ對シテハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得セシメタルモノトス

第六十七條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ノ連帶負擔トス

本條ハ共犯ハ訴訟費用分擔ニ關スル規定ニシテ舊刑法第四十七條ヲ修正シタルモノトス元來訴訟費用ハ被告人ニ科スル刑罰ニ非サルモ被告人ノ犯罪行為爲依リ特ニ國家ノ受ケタル損害ナルヲ以テ之ヲ被告人ニ負擔セシムルモノナリ而シテ國家カ共犯人ノ爲メニ要シタル費用ハ其共犯人ノ被告事件全部ニ對シテ爲シタルモノナレハ之ヲ各自ニ分擔セシムルハ理由ナキコトナルヲ以テ本條ハ共犯人ハ訴訟費用ハ各自ニ連帶負擔セシムルコト、爲シタルモノナラトス從テ共犯人ハ各々訴訟費用ニ付キ國家ニ對シテ納付スル義務ヲ負ヒ之ヲ納付シタル者ハ他ノ共犯人ニ對シテ求償權ヲ有スルモノトス

附則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

本附則ハ本法ハ施行時期及ヒ舊刑法施行ハ爲メ公布シタル法令ハ廢止ヲ規定シタルモノトス即チ第一項ニ於テ本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス可キコトヲ規定セルカ故ニ刑法ノ施行日タル明治四十一年十月一日(明治四十一年六月二十九日勅令)ヨリ本法モ施行セラル、モノトス又刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メニ公布シタル法令ハ一ニ舊刑法ノ運用ヲ圓滿ナラシメンカ爲メニ設ケラレタル法令ナレハ其基本タル舊刑法ノ廢止セラレタル曉ニハ當然不用ニ歸スルヲ以テ本法ハ之カ廢止ヲ茲ニ規定シタルモノナリトス而シテ茲ニ刑法附則トハ明治十四年布告第十七號ヲ以テ發布シタル法律ヲ謂ヒ其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令トハ例ヘハ明治十四年布告第七十二號諸罰例處斷方等ノ如キヲ謂フモノトス

刑法施行法大意 (畢)

附錄參照條文

○明治十四年十二月第八十一號布告第一條(第十三條參照)

第一條 新舊法比照左ノ如シ

新法	舊法
一 死刑	斬絞
二 無期徒刑	懲役終身
三 有期徒刑	懲役終身
四 無期流刑	禁獄終身
五 有期流刑	
六 重懲役	懲役十年
七 輕懲役	懲役七年
八 重禁獄	禁獄十年
九 輕禁獄	禁獄七年

◎刑法施行法大意附錄參照條文

- 十 重禁錮 懲役十一日以上五年以下
- 十一 輕禁錮 禁獄鎖錮十一日以上五年以下
- 十二 罰金 贖罪收賄罰金科料貳圓以上
- 十三 拘留 懲役禁獄鎖錮拘留十日以下
- 十四 科料 贖罪收賄罰金科料貳圓未滿

○爆發物取締罰則第十條(第二十二條參照)

第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及第八十一條ノ例ヲ用ヒス但シ十六歲未滿ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

○明治二十二年法律第二十八號議會及議員ノ保護ニ關スル罰則(第二十四條參照)

第一條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ十一月以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス但シ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第二條第三條ノ罪ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

○明治二十二年法律第九十九號竊盜ノ罪ニ關スル件(第二十四條參照)

第一條 家屋其他ノ建築物外ニ於テ犯シタル竊盜ニシテ未タ遂ケサル者又ハ已ニ遂ケタルモ其贓額五圓ニ滿サル者ハ十一月以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條 田野、山林、川澤、池沼、湖海ニ於テ其產物ヲ竊取セントシ又ハ牧場ニ於テ其獸類ヲ竊取セントシテ未タ遂ケサル者又ハ已ニ竊取シタルモ其贓額五圓ニ滿タサル者又前條ニ同シ

第三條 前二條ニ記載シタル贓額ハ犯罪ノ地及其時ニ於ケル物價ニ據リ裁判所ヲ定ム但贓物現在セサルトキハ其中等ノ價格ニ據ル可シ

○本法ニ依リ舊刑法ノ重罪ト看做サルヘキ刑法ノ罪(第二十九條參照)

第一章第七十三條及第七十五條規定ノ罪、

第二章第七十七條第一項第一號第二號第七十七條第二項及第七十八條規定ノ罪、

第三章第八十一條乃至第八十八條規定ノ罪、

第四章第九十條規定ノ罪、

第六章第一條及第一百二條規定ノ罪、

第八章第六條第一號規定ノ罪、

第九章第八條乃至第一百十條第一百十二條第一百十四條第一百十五條第一百十七條第一百十八條規定ノ罪、

第十章第一百九條乃至第二十一條規定ノ罪、

第十一章第二百四條乃至第二百二十八條規定ノ罪、

第十四章第三百八條第三百四十一條規定ノ罪、

第十五章第四百二條乃至第四百七條規定ノ罪、

第十六章第四百八條第四百九條第五百一十一條規定ノ罪、

第十七章第五百四條乃至第五百十六條及第五百十八條規定ノ罪、

第十九章第六十四條及第六十八條規定ノ罪、

第二十二章第七十七條乃至第七十九條及第八十一條規定ノ罪、

第二十五章第九十四條乃至第九十七條規定ノ罪、

第二十六章第九十九條第二百條及第二百三條規定ノ罪、

第二十七章第二百五條及第二百七條規定ノ罪、

第二十九章第二百十六條規定ノ罪、

第三十章第二百十七條乃至第二百十九條規定ノ罪、

第三十一章第二百二十一條規定ノ罪、

第三十三章第二百五條第二百五十六條及第二百二十八條規定ノ罪、

第三十六章第二百三十六條第二百三十八條乃至第二百四十一條及第二百四十三條規定ノ罪、

第三十八章第二百五十三條規定ノ罪、

第四十章第二百六十條第二百六十二條規定ノ罪、

○明治二十八年法律第七十號刑ノ執行猶豫ニ關スル制(第五十八條參照)

第二條 左ニ記載シタル者一年以下ノ禁錮ニ處セラレタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ
二年以上五年以下ノ期間内其ノ執行ヲ猶豫スルコトヲ得但シ監視ニ付セラレタル者ハ此ノ限
ニ在ラス

一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ノ免除ヲ得タ
ル日ヨリ十年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第二條 刑ノ執行ヲ猶豫シタル場合ニ於テハ附加刑亦其ノ執行ヲ猶豫ス但シ沒收ハ此ノ限ニ在
ラス

第三條 刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決
ヲ以テ之ヲ言渡スヘシ

刑ノ言渡アリタル後ニ於テハ其ノ言渡ヲ爲シタル裁判所檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ執
行猶豫ノ決定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ決定確定ニ至ル迄刑ノ執行ヲ停止ス
刑ノ執行ニ着手シタル者ニ付テハ其ノ執行ヲ猶豫セズ

第四條 檢事ハ刑ノ執行猶豫ノ裁判ニ對シテハ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ上訴ヲ爲スコトヲ得

第五條 刑ノ言渡ニ對シ上訴アリタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ裁判ハ當然其ノ効力ヲ失フ
但シ上訴裁判所ニ於テ更ニ執行ヲ猶豫スルコトヲ妨ケス

第六條 刑ノ執行猶豫ノ期間内左ニ記載シタル事由アルトキハ執行猶豫ノ裁判ヲ取消スヘシ

一 猶豫期間内ニ犯シタル罪ニ付禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 猶豫ノ裁判前ニ犯シタル他ノ罪ニ付禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 猶豫ノ裁判前十年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第七條 刑ノ執行猶豫ノ取消ハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ於テ檢
事ノ請求ニ因リ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ對シテハ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ抗告ヲ爲スコトヲ得

第八條 刑ノ執行猶豫ノ裁判取消サレタルトキハ刑期ハ其ノ決定確定ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第九條 刑ノ執行猶豫ノ裁判取消サルルコトナクシテ其ノ猶豫期間ヲ經過シタルトキハ猶豫セ
ラレタル刑ノ執行ヲ免除ス

附 則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○明治三十九年法律第五十四號刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ノ公民權及議員選舉權被選舉權ニ關スル制(第五十九條參照)

明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ハ其ノ猶豫期間市町村ノ公民權ヲ停止シ市町村會議員北海道會議員及衆議院議員ノ選舉權被選舉權ヲ有セサルモノトス

○明治二十二年法律第六號裁判所構成法前改正法參照條文

第十六條ノ一 區裁判所ハ刑事ニ於テ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス但シ第二以下ニ記載シタル罪ハ豫審ヲ經サルモノニ限ル

第一 違警罪

第二 窃盜ノ罪及窃盜ノ贓物ニ關スル罪

第三 貳百圓ヲ超過スル罰金ヲ併科又ハ附加セサル本刑六月以下ノ禁錮ニ該ル罪

第四 本刑貳百圓ヲ超過セサル罰金ニ該ル罪

第五十條 大審院ハ左ノ事項ニ付裁判權ヲ有ス

第一 終審トシテ

(イ)第三十七條第二ニ依リ爲シタル判決及第三十八條ノ第一審ノ判決ニ非サル控訴院ノ判

決ニ對スル上告

(ロ)控訴院ノ決定及命令ニ對スル抗告

第二 第一審ニシテ終審トシテ

刑法第二編第一章及第二章ニ掲ケタル重罪並ニ皇族ノ犯シタル罪ニシテ禁錮又ハ更ニ重キ

刑ニ處スヘキモノノ豫審及裁判

○刑法施行前ニ公布シタル命令ニ關スル件(四十一年九月勅令第二七號)(第一條參照)

刑法施行法中他ノ法律ニ關スル規定ハ刑法施行前ニ公布シタル命令ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第五百十五號ハ之ヲ廢止ス

(明治三十九年勅令第五百十五號ハ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル者ノ北海道及沖繩縣ニ於ケル區ノ公民權及區會議員選舉權ニ關スル件ナリ)

○刑法施行後施行ノ命令ニ掲ケタル刑法ノ刑名ニ關スル件(明治四十二年四月勅令第二十號)(第二十八條參照)

刑法施行後施行ノ命令ニ於テ人ノ資格其ノ他ノ事項ニ關シ掲ケタル刑法ノ刑名ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外左ノ例ニ從ヒ對照シタル舊刑法、舊陸海軍刑法ノ刑名ヲ包含ス

刑法ノ刑 舊刑法、舊陸軍刑法及舊海軍刑法ノ刑

死刑 死刑

懲役 無期徒刑、有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮

禁錮 無期徒刑、有期徒刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮

罰金 罰金

拘留 拘留

科料 科料

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勳章褫奪令附則第三項ハ之ヲ廢止ス

刑法施行法大意附録條文(畢)

386
19

明治四十四年三月十七日印刷
明治四十四年三月二十三日發行

定價金五拾錢



著者 木村 增太郎

發行者 福富 薰三

印刷者 田中 直次郎

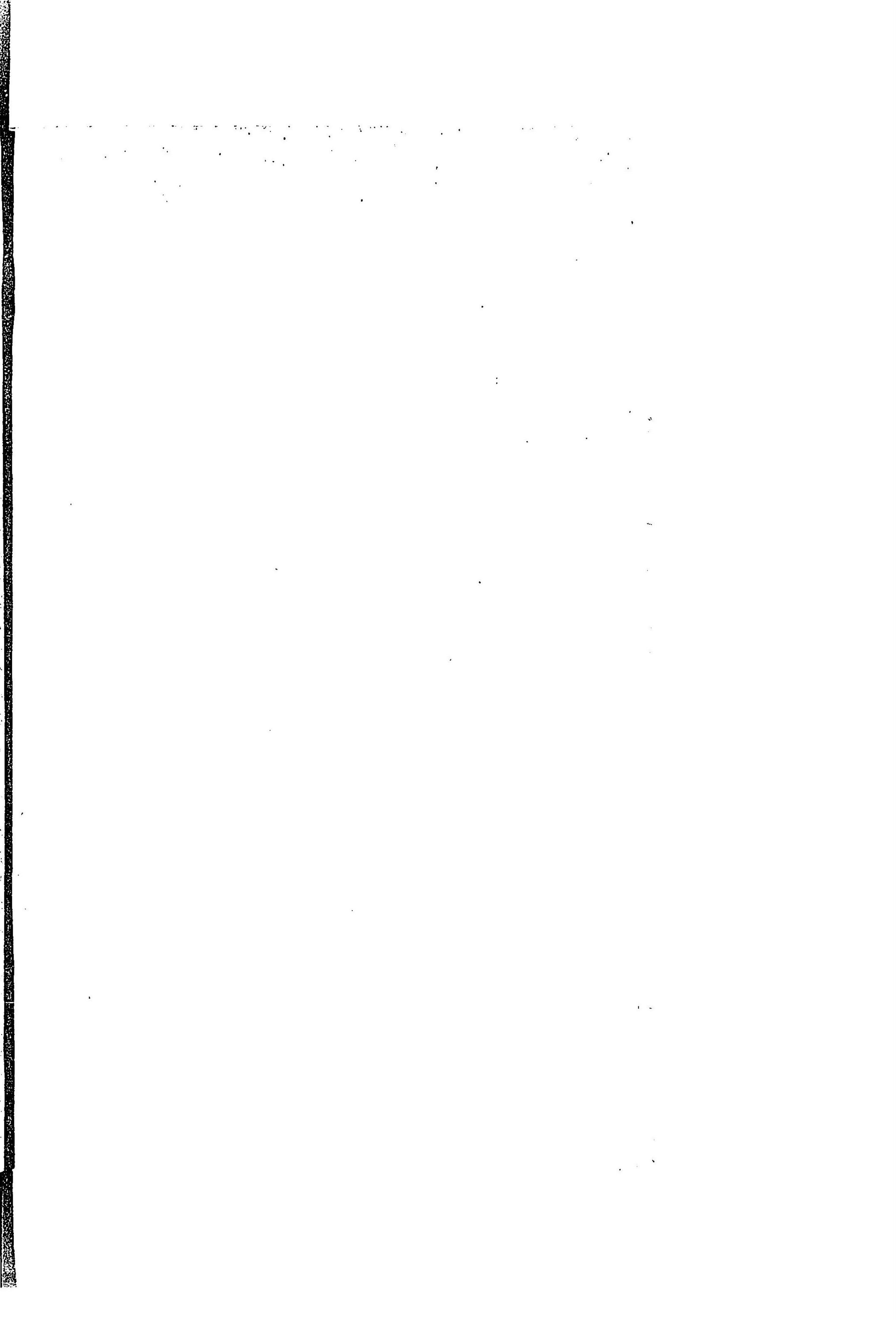
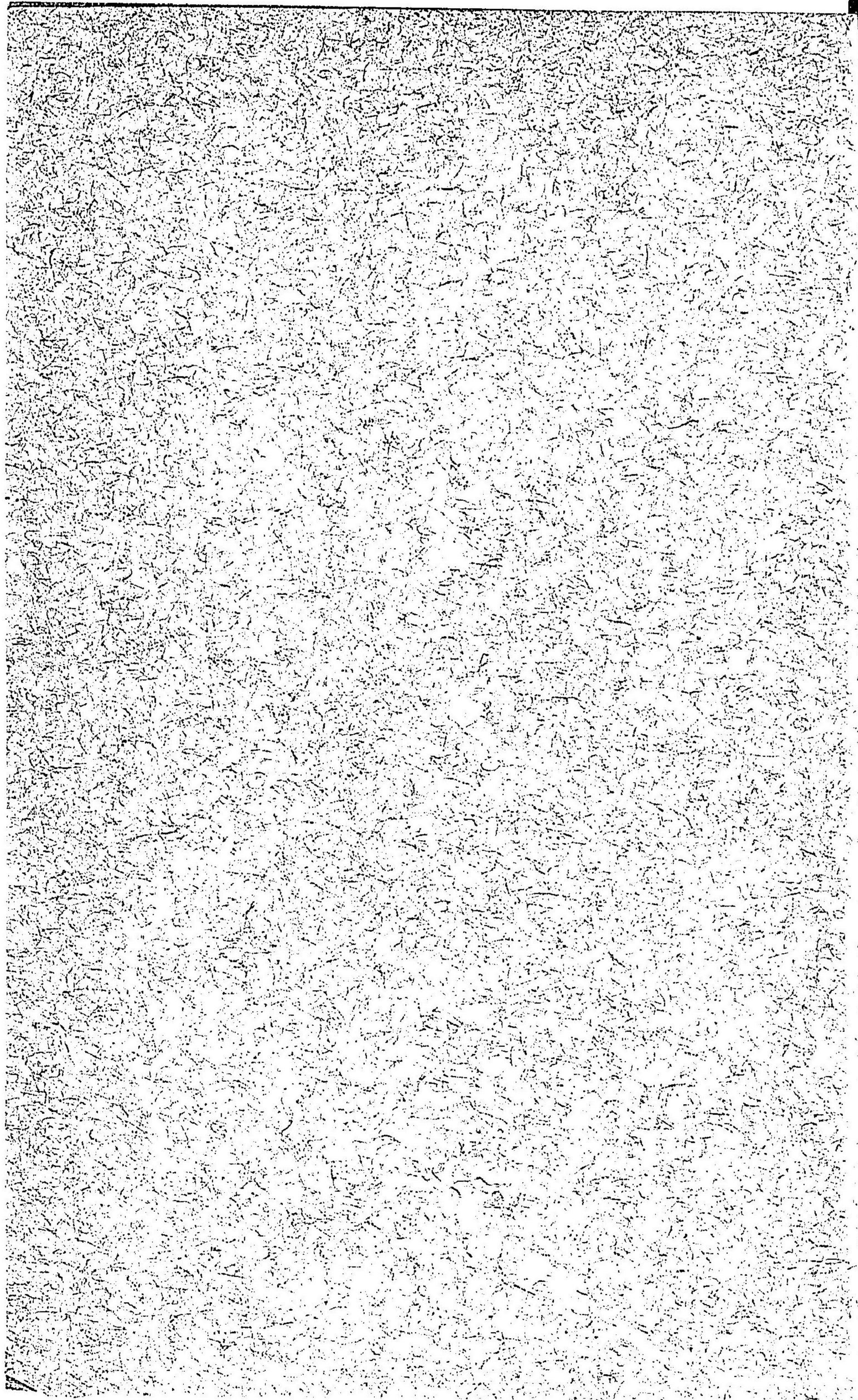
京都市上京區二條通富小路東入
晴明町第六百七十番地

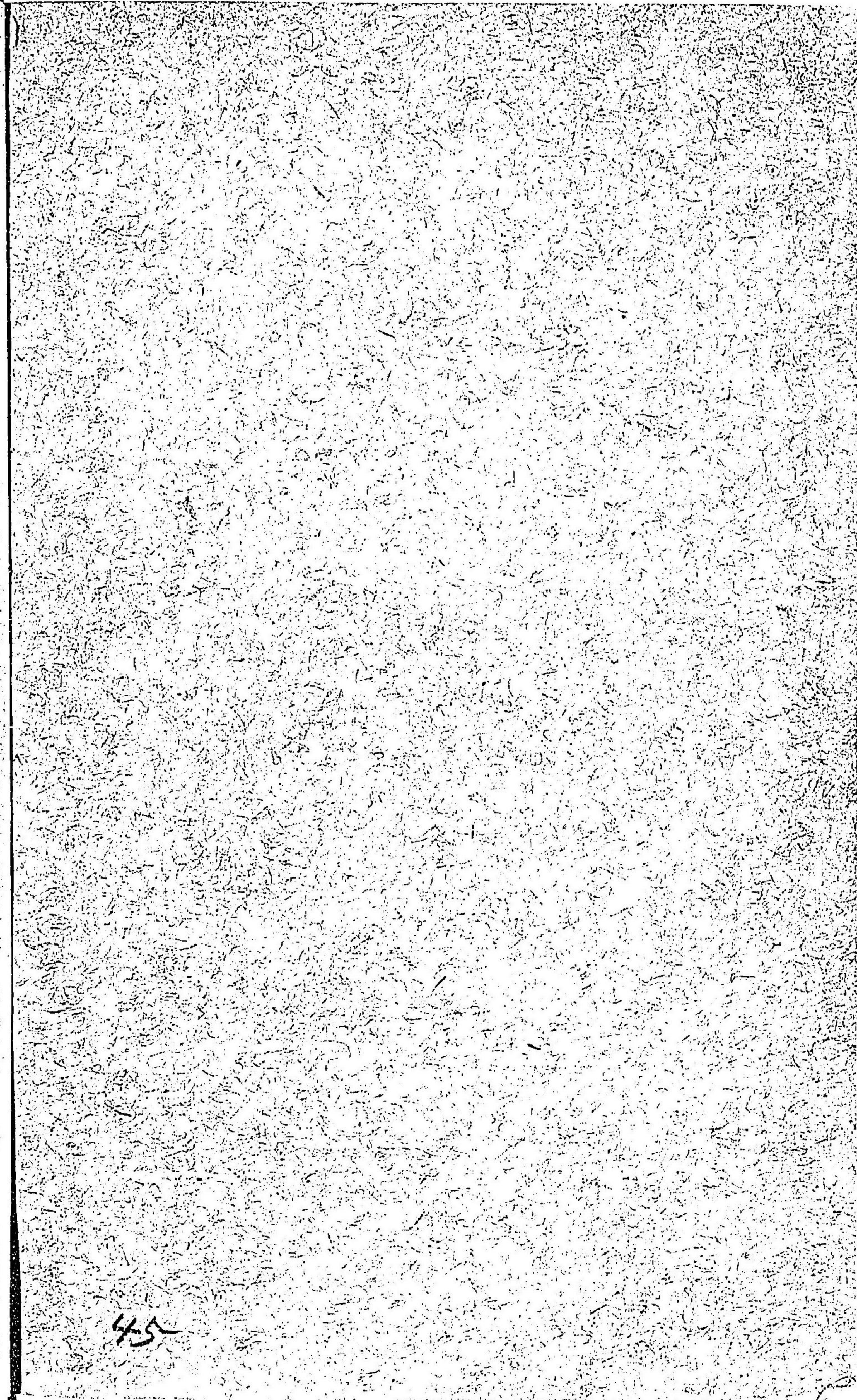
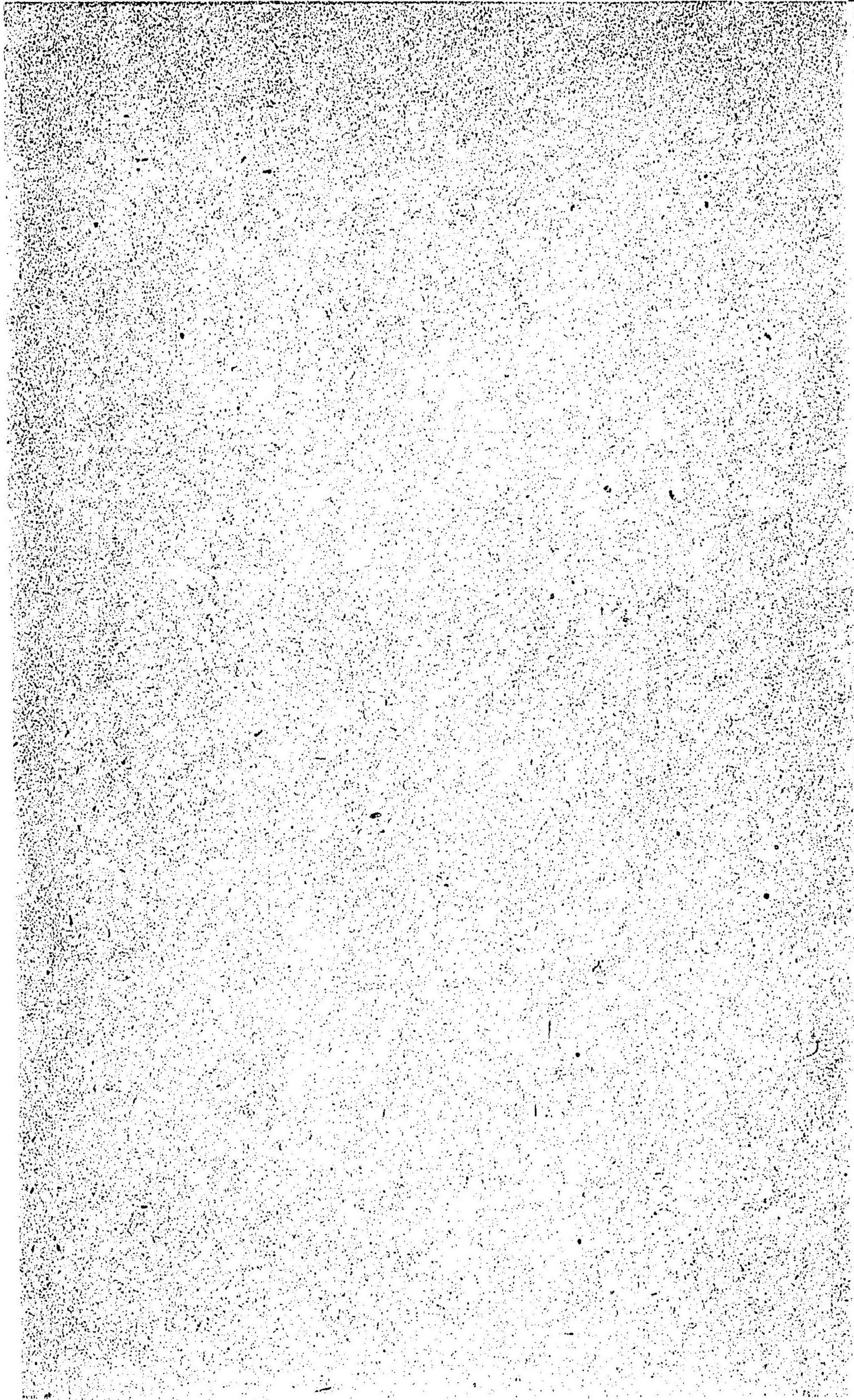
京都市上京區竹屋町通堺町西入
絹屋町第四百四十一番地

京都市上京區二條通富小路東入
晴明町第六百七十番地

發行所

帝國法政學會

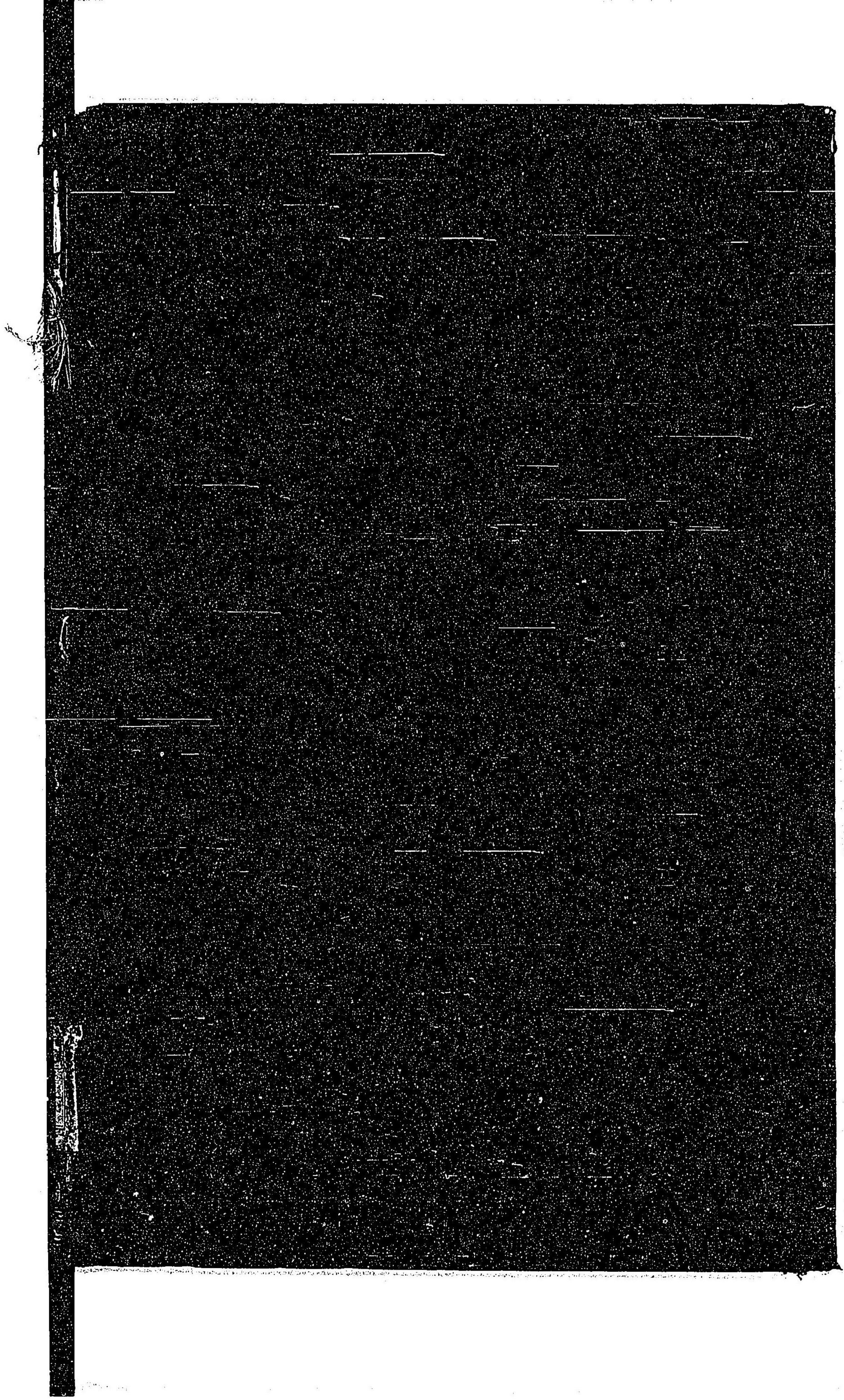




45

326

19



336
19

035755-000-3

336-19

刑法施行法大意

木村 増太郎/述

M44

BBP-0339

